

令和7年度事業報告



ひたすらつながり

滋賀の縁創造実践センター

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

目 次

I	令和7年度事業計画の重点項目に基づく事業・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	部門別事業実施状況	
	経営部門	
	＜総務課＞・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	＜修学・生活資金課＞・・・・・・・・	21
	地域福祉部門	
	＜地域福祉課＞・・・・・・・・	29
	＜レイカディア振興課＞・・・・・・・・	59
	＜しがレイカディア・エクステンションセンター（S L E C）＞・・・・・・	68
	人材部門	
	＜介護・福祉人材センター＞・・・・・・・・	71
	＜社会福祉研修センター＞・・・・・・・・	74
	福祉用具センター・・・・・・・・	78
	COZY TOWN・・・・・・・・	84
	運営適正化委員会・・・・・・・・	87

令和7年度事業計画の重点項目に基づく事業

第三次経営計画の2年目として、スローガンの「実践と協働の進化」を推進するために、関係者とともに制度の狭間や生活上の課題に取り組み、「幸福の格差」に挑む地域福祉実践を進めた。

1の柱 ともに生きる地域社会に向けての新たな縁の創造実践

第44回滋賀県社会福祉学会および学会シンポジウム（えにしフォーラム）を開催し、地域福祉実践に関する研究発表や実践交流を通じて、福祉関係者相互の学びとつながりの強化を図った。

また、「ケアラー」をテーマとした『滋賀社会福祉研究』を発行するとともに、在宅医療的ケア者支援方策の検討や重度障害児者への入浴支援を実施し、ケアを地域で支える取組を推進した。

1. 第44回滋賀県社会福祉学会の開催

滋賀ならではの福祉の価値を生み出してきた“滋賀の福祉人”の現場力を共有し、誰もが暮らしやすい未来の福祉実践の創造へつなげる場として、「ケアを支える地域福祉実践」を大会テーマに、第44回滋賀県社会福祉学会および学会シンポジウム（えにしフォーラム）を開催した。

- ・開催日 令和8年2月20日（金）
- ・参加者 271人
- ・自由研究発表 11題、実践報告 16題
全5分科会 27題
- ・奨励賞受賞者 3名



44回学会 基調講演

2. 滋賀社会福祉研究第26号の発行

「ケアラー」をテーマとした『滋賀社会福祉研究第26号』を3年ぶりに新たな姿で復刊した。

- ・発刊日 令和8年2月
- ・テーマ 「ケアを支える地域福祉実践」
- ・内容 ▶論文「ケアラー支援」という政策動向と新たな支援論
▶「ケアのある暮らし」を支える実践報告
▶「滋賀県社会福祉学会」奨励賞レポート 等



3. 在宅医療的ケア者支援方策の検討及び重度障害児者の入浴支援の実施

訪問介護サービス系喀痰吸引等事業所の増加により、在宅で暮らす医療的ケア児者と家族を支えることを目的に検討会を開催し、提言書を作成した。また、在宅で暮らす重度障害児者の入浴機会の充実に向け、米原市でモデル事業を実施し、圏域での課題共有を行った。

2の柱 子ども・若者たちとともに生きる地域社会づくり

つながり若者センターにおいて、困難を抱える若者への相談支援や居場所活動を実施するとともに、関係機関と連携した支援を推進した。また、困難世帯の子どもの居場所に関する調査研究を実施した。

1. つながり若者センターによる困難を抱えた若者に対する相談支援

つながり若者センターにコーディネーターを配置し、来所・訪問・LINE等による相談支援と年間60回の居場所活動を実施するとともに、関係機関と連携した支援体制の強化を図った。また、虐待経験等のある若者への支援体制構築に向け、市町担当者との意見交換を行った。

2. 社会的養護自立支援実態把握調査

社会的養護自立支援にかかわるスタッフや社会的養護経験者等の若者に対する調査および若者同士の座談会における聞き取りから、「社会的養護経験者の実態」と「若者と支援者の認識の差」を明らかにすることを目的に調査を実施した。

調査から、社会的養護経験者は「孤独感」「将来の希望の持ちづらさ」が高いことや、若者と支援者の間では「退所前に不安を感じていたこと」「必要だと思っている支援」について認識の差があることが明らかになった。

- ・調査対象：県内14か所の施設等に勤務するスタッフ
若者 105名
若者(座談会) 5名(うち1名は個別聞き取り)



3. 困難世帯の子どもの居場所に関する課題と今後の在り方についての調査研究

本会が推移推進するフリースペース事業について、意義と課題を明らかにし、今後の事業のあり方、子どもの居場所づくりについて検討することを目的に研究を行った。

調査研究により、子どもには成功体験を増やし、愛着面の回復につながっている可能性が高いと考えられた。また、フリースペース実施団体には、職員のやりがいや経験につながり、団体の地域における存在意義を高める効果があると考えられた。

- ・調査時期：令和7年9月～令和7年11月
- ・調査対象：フリースペース実施主体、世帯や子どもと関わるワーカー、フリースペースを利用している子ども・卒業した若者、保護者、市町社協

4. 子ども食堂開設・普及支援・活動の進化

子ども食堂の開設や普及を支援するとともに、身近な温かいつながりの場である“地域食堂”としてさらなる進化を目指すために、食堂に来ている子どもたちの声を聴き、子どもたちにとって安心できる場所として子ども食堂が継続して運営できるよう、引き続き伴走体制での支を検討・推進していく。

- ・新規立ち上げ子ども食堂（ネットワーク加入数） 35 か所
（令和7年度末現在の子どもの食堂か所数（ネットワーク加入数）262 か所）
- ・開設支援助成 24 食堂
- ・子どもたちを対象としたアンケート調査 および インタビュー調査 を実施

3の柱 滋賀の福祉の人づくりの推進

「介護職員初任者研修」の実施や就労支援により介護人材の確保・育成に取り組むとともに、レイカディア大学による地域で活躍するシニア人材の育成を進めた。また、えにしアカデミーの運営を通じて、主体的に社会課題の解決に取り組む実践者である「滋賀の福祉人マスター」養成を行った。

令和8年3月時点で滋賀の福祉人マスター輩出：57 名

1. 滋賀の福祉人マスター（えにしアカデミー修了者）等に活躍の場づくりと活動支援に取り組み、身近なロールモデルとなる次世代リーダーの育成を推進

- ・滋賀の福祉人マスターの活躍

えにしアカデミーフェロー就任1名

滋賀の福祉人研修コーディネーター1名

「滋賀の福祉」実践推進事業推奨事業所（21 事業所）



修了後の実践



推奨事業所 推奨式

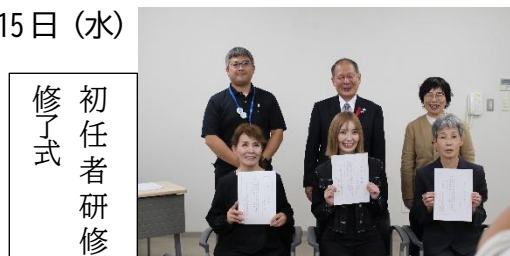


フェロー紹介

2. ひとり親世帯等で就労や生活が不安定な状況にある人等が介護の職場で専門職として従事し、定着していくための「介護職員初任者研修」の実施

コロナ特例貸付フォローアップ支援事業と協働し、家族のケアや経済的に困難な状況にある人等が、介護職員初任者研修を経て介護職に定着できるよう、関係団体と連携した支援を行った。

- ・開催日程：令和7年7月9日（水）～令和7年10月15日（水）
- ・修了者数：5名



3. レイカディア大学による地域で活躍するシニア世代の仲間づくりと多様な活動の推進

高齢者に学習機会を提供し、地域活動の担い手養成と地域貢献の促進を目的にレイカディア大学を運営した。また、学生の関心の幅を広げ、卒業後の地域活動につなげるため、46 期生を対象に地域活動団体との交流を行う「ボランティア相談会」を実施した。

- ・2拠点各1回実施 参加団体計28団体
- ・レイカディア大学学生数：390名（令和8年3月31日時点）

4の柱 つなぐ力を生かした生活者支援の推進

県域の権利擁護センターの役割を見直し、市町社協や中核機関等との連携強化を図るとともに、権利擁護支援の推進と権利擁護支援の担い手の育成に取り組んだ。また、生活福祉資金特例貸付利用者に対し、“三位一体”によるフォローアップ支援や課題解決サポートチームによる生活再建支援を実施した。さらに、ひきこもり状態にある本人や家族への相談支援や居場所づくりを通じ、地域支援体制の推進を図った。

1. 滋賀県権利擁護センターの再構築（人材育成・関係機関との連携強化・運営体制の強化と職員の資質向上）

県内の権利擁護支援にかかわる取り組みの充実に向けて、中核機関ネットワーク会議や滋賀県権利擁護支援・成年後見制度利用促進協議会の事務局を新たに担うとともに、県から新たに受託した県域での事業実施を通じて、市町社協や中核機関、専門職団体をはじめとする関係機関との日常的な連携を強化した。また、権利擁護支援に携わる人材育成のため、権利擁護セミナーを開催してすそ野を広げるとともに専門職に向けた研修会を実施し、資質向上に努めた。



法人後見受任団体養成研修

2. 特例貸付利用者に対する、貸付後フォローアップ支援の充実、及び課題解決サポートチームによる生活再建支援事業の推進

これまで一度も連絡がつかず訪問ができていない、なおかつ一度も償還がないいわゆる「未応答者」へのとの接触に重点を置き、生活状況の聞き取りのための訪問およびフォローアップ支援を進めた。

また、フォローアップ支援から見てきた生活課題を抱えた借受人を確実に相談へとつなげ、市町社協や自立相談支援機関等と連携しながら生活課題の解決を図り、生活再建に向けて一緒に伴走することをねらいとした生活再建支援事業を実施した。



訪問に向かう訪問支援員



専門性向上のための研修

3. ひきこもり者と家族が孤立しない地域支援体制づくりの推進

ひきこもり当事者・家族および支援者に対する支援として、居場所づくり、家族教室ならびに支

援者ネットワークづくり等に取り組んだ。

- ・働く場づくり「県社協はたらく体験」
12回実施 延べ参加者数 74名

- ・家族教室

- ①令和7年10月25日（土）

- 講師：KHJ埼玉けやきの会家族会 田口 ゆりえ氏

- 参加者 59人

- ②令和8年2月10日（火）

- 講師：大阪経済大学 人間科学部 岩田 光宏氏

- 参加者 47人



家族教室 講演のようす

- ・保健福祉圏域におけるひきこもり支援関係者のネットワークづくり
5保健福祉圏域のひきこもり支援に関わるネットワーク会議への参画
- ・地域における啓発・居場所づくりへの支援
助成団体 17団体

5の柱 ともに生きる地域福祉を構築するネットワークの強化

市町社会福祉協議会、施設協議会、関係福祉団体など関係者とともに喫緊の福祉課題について認識を共有し、令和8年度に向けた社会福祉関係予算要望及び提案を協働で行った。

また、しがDWAT 養成研修や関係機関との連携強化等を通じ、災害福祉支援体制の充実を図った。

1. 市町社協との協働による人材育成

数年ぶりとなる地域福祉担当者会議を開催した。階層・経験年数を問わずに参加を募り、約50名の参加があり、学び合い、つながり合う機会となった。

また、希望を受けて総務担当者会議も開催した。会費、広報、経理および業務効率化等をテーマとして意見交換を行った。

役員改選年度でもあり、新たに理事、監事、評議員となった方を対象として、役員等研修を実施した。



2. 社会福祉施策検討委員会による施策提言の実施

要望先	実施日	場所
自由民主党滋賀県議会議員団	令和7年6月5日（木）	滋賀県庁2階 議員室
チームしが 県議団	令和7年8月25日（月）	滋賀県庁2階 第5委員会室
滋賀県(健康医療福祉部長)	令和7年8月28日（木）	滋賀県危機管理センター
滋賀県(子ども若者部長)	令和7年8月28日（木）	滋賀県危機管理センター

自由民主党



チームしが



3. 災害福祉支援活動の強化に向けた取組

災害時における福祉的支援の推進に向け、常設型災害ボランティアセンターの運営、災害時要配慮者支援ネットワーク会議の運営、滋賀県災害派遣福祉チーム（しがDWAT）事務局の運営、および災害時対応の強化や意識の向上を図る取組みを行った。

また、専門ボランティア等の調整を行う「災害中間支援組織」機能について、滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会において担うこととなった。

（1）滋賀県災害ボランティアセンター

①災害ボランティアコーディネーター基礎研修

・参加者 24名

②災害ボランティアセンターマネジメント研修

・参加者 25名

③運営協議会の開催

・4回開催

・内容 災害中間支援組織に関する検討および訓練内容の検討など

④非常時体制移行・機動運営訓練の実施

・参加者 24名

⑤市町災害ボランティアセンター設置運営訓練

6市町社協の訓練に職員を派遣し、災害時支援体制の強化に努めた。

（2）災害時要配慮者支援ネットワーク会議

①全体会議

・参加者 85名

②圏域における要配慮者支援会議の開催（甲賀市避難行動要支援者支援ネットワーク会議）

・参加者 17名

（3）滋賀県災害派遣福祉チーム（しがDWAT）

①しがDWAT チーム員養成研修

・参加者 33名

②【滋賀県災害派遣福祉チーム（しがDWAT）フォローアップ研修】

・参加者 58名

③災害派遣福祉チーム（しがDWAT）在宅避難者支援訓練

DWATのガイドライン改訂により、支援活動の範囲に在宅避難者や車中泊避難者等、避難所に滞在することのできない被災者支援が加わったことを受け、在宅避難者への支援訓練を行った。



・参加者 58名

(4) えにしの日、えにし月間における防災の取り組み

3月11日を「えにしの日」、3月を「えにし月間」として、災害時に困難を抱える人の視点で、非常時に備えた訓練や研修を行う団体に助成した。

・取組み団体 31団体



(5) 災害福祉をテーマとした淡海フィランソロピーネット 30周年記念フォーラム

・スペシャルコラボトーク「これまでの災害支援の課題を踏まえて、災害時に県民の命と暮らしを守るために企業・行政・社協が果たすべき役割」等

・参加者 88名



6の柱 「ひたすらなるつながり」のもと創り上げる地域福祉の発信

人材育成基本方針に基づく研修計画の策定や職員育成に取り組み、組織力と職員の資質向上を図った。また、関係者と協働した広報戦略の構築を進めるとともに、本会としても「季刊ひたすらなるつながり」を発行し、本会の考えや地域福祉実践の発信に取り組んだ。

1. 人材育成基本方針に基づいた研修計画の策定および法人を支える職員育成の推進

職階に応じた職務遂行能力の向上の為、下記の通り、職場内部研修の実施、階層別研修等への参加により、職員の資質向上を図った。また、メンター制度を導入し新規採用職員の定着を図った。

①新任職員研修 3回

②全国社会福祉協議会・中央福祉学院主催研修への参加

- ・社会福祉主事資格認定通信課程 1名
- ・社会福祉法人会計実務講座 入門1名、初級1名、中級1名
- ・社会福祉協議会新任職員研修会 2名

③福祉人研修

- ・新任期 2名、中堅期 2名、チームリーダー2名、管理職1名

④目標管理評価者研修 17名

⑤人権研修 116名

テーマ「人権課題を正しく理解し、差別をなくすために私たちにできること」

⑥第33回部落解放研究滋賀県集会 10名

⑦広報研修「取材の仕方と記事の書き方」 25名

⑧施設現場研修 信楽青年寮 1名

- ⑨社協役員研修（財務管理研修） 31 名
- ⑩ハラスメント研修「カスタマーハラスメント研修」 23 名
- ⑪えにしアカデミー 4期生 1名、5期生 1名

2. 関係者と協働した効果的な情報発信のための広報戦略の構築

- ①本会の発信力を高めるため、facebook・Instagram を、週2回更新し、県社協の活動を SNS で積極的に発信した。
- ②広報研修の実施
 - 「取材の仕方と記事の書き方」 令和7年10月28日（火） 25名
 - 講師 フリーライター 小坂 綾子氏

3. 「季刊ひたすらなるつながり」による本会のオピニオン発信

- 〈第16号〉 令和7年8月発行 3,000 部
 - 特集 With Care ケアのある暮らし・働き方
- 〈第17号〉 令和8年1月発行 3,000 部
 - 特集 情報コミュニケーションツールの進化



総務課

1. 理事会、監事会、評議員会等の開催

(1) 理事会

<第1回>

開催日 令和7年6月9日（月）

- 議 題
- (1) 令和6年度 事業報告（案）について
 - (2) 令和6年度 一般会計収支決算（案）について
 - (3) 令和6年度 生活福祉資金会計収支決算（案）について
 - (4) 第38期役員候補者の選任について
 - (5) 第3期評議員選任・解任委員会委員の選任について
 - (6) 令和7年度 第1回評議員会（定時評議員会）の招集について

<第2回>

開催日 令和7年6月26日（木）

- 議 題
- (1) 会長、筆頭副会長、副会長及び常務理事の選定について

<第3回> 決議の省略

- ・理事会の決議があったとみなされる日…令和7年10月31日（金）
- ・理事会の決議があったとみなされる事項の内容

- (1) 評議員の補充選任に伴う、評議員選任・解任委員会に提出する候補者の選任について

<第4回>

開催日 令和7年12月22日（月）

- 議 題
- (1) 令和7年度第一次収支補正予算（案）について

<第5回> 決議の省略

- ・理事会の決議があったとみなされる日…令和8年2月9日（月）
- ・理事会の決議があったとみなされる事項の内容

- (1) 令和7年度第3回評議員会の招集について

<第6回>

開催日 令和8年2月13日（金）

- 議 題
- (1) 本会に関する訴訟案件について

<第7回>

開催日 令和8年3月9日（月）

- 議 題
- (1) 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会定款の変更について
 - (2) 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会経理規程の変更について
 - (3) 訴訟和解に伴う借入れ（案）について
 - (4) 令和8年度 事業計画（案）について
 - (5) 令和8年度 一般会計収支予算（案）について

- (6) 令和8年度 生活福祉資金会計収支予算（案）について
- (7) 令和8年度 資産運用計画（案）について
- (8) 役員等賠償責任保険契約の締結および本会の保険料負担（案）について
- (9) 令和7年度 第4回評議員会の召集について

(2) 監事会

<第1回>

開催日 令和7年5月27日（火）

- 議 題 (1) 事業報告等（理事の業務執行状況、法人の業務執行状況）の監査
(2) 計算関係書類及び財産目録の監査

(3) 評議員会

<第1回>

開催日 令和7年6月26日（木）

- 議 題 (1) 令和6年度 事業報告（案）について
(2) 令和6年度 一般会計収支決算（案）について
(3) 令和6年度 生活福祉資金会計収支決算（案）について
(4) 第38期理事・監事の選任について

<第2回>決議の省略

- ・評議員会の決議があったとみなされる日…令和8年1月30日（金）
- ・評議員会の決議があったとみなされる事項の内容
(1) 令和7年度第一次収支補正予算（案）について

<第3回>

開催日 令和8年2月16日（月）

- 議 題 (1) 本会に関する訴訟案件について

<第4回>

開催日 令和7年3月19日（木）

- 議 題 (1) 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会定款の変更について
(2) 訴訟和解に伴う借入れ（案）について
(3) 令和8年度 事業計画（案）について
(4) 令和8年度 一般会計収支予算（案）について
(5) 令和8年度 生活福祉資金会計収支予算（案）について

(4) 評議員選任・解任委員会

<第1回>

開催日 令和7年5月1日（木）

- 議 題 (1) 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会第36期評議員の選任について

<第2回> 決議の省略

- ・評議員選任・解任委員会の決議があったとみなされる日…令和7年11月13日（木）
- ・評議員選任・解任委員会の決議があったとみなされる事項の内容

(1) 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会 第35期評議員の補充選任について

2. 法人体制強化の取組

(1) 第三次経営計画の進行管理

当該年度事業計画と併せて執行管理を行い、令和7年12月22日開催の第4回理事会において、進捗報告を行った。

(2) 県立長寿社会福祉センターの管理運営

高齢者の健康と生きがいづくりを推進し、明るく活力ある長寿社会づくりを実現することを目的・役割として設置されるセンターを、誰もが利用しやすい施設となるよう配慮するとともに、適切な管理運営を行った。

また、設置者である滋賀県と連携し、施設設備の経年使用に伴う老朽化等に計画的に対処するとともに、当初計画に含まれない工事にも的確に対応し、利用環境の向上を図った。

①特定施設の利用実績

施設を、下表のとおり 61,586 名の方に利用いただいた。

<特定施設の利用件数、利用者数の本年度累計>

室名	大教室	体育室	焼成室	陶芸室	第1教室	調理室	第2教室
件数(件)	144	210	288	288	203	92	169
人数(名)	18,302	4,139	3,814	3,877	4,444	2,028	4,128
室名	会議室	第1研修室	第2研修室	第3研修室	第4研修室	合計	
件数(件)	235	244	197	168	176	2,414	
人数(名)	2,610	9,790	2,774	2,545	3,135	61,586	

②特定施設の稼働実績

対前年度比で稼働率は 2.5 ポイント減少したものの(令和6年度稼働率 72.0%)、施設の有効活用の目標である 62.7%を 6.8 ポイント上回った。満足度に関する利用者アンケートでは、「満足」「やや満足」が 90%を超えており、利用者の満足度は高い結果となった。

<特定施設の本年度稼働率>

室名	大教室	体育室	焼成室	陶芸室	第1教室	調理室	第2教室
稼働率	49.8%	72.7%	99.7%	99.7%	70.2%	31.8%	58.5%
室名	会議室	第1研修室	第2研修室	第3研修室	第4研修室	合計	
稼働率	80.5%	83.6%	68.2%	58.1%	60.9%	69.5%	

③センター施設設備の保全と維持管理

センターが適切に機能するよう、その適正な保全と維持管理に努めた。

○長寿社会福祉センターの長寿命化工事

令和7年度実施無し

○その他保全・維持管理に係る業務

- ・会議室カーペット張替え工事、事務室外周辺の樹木根切り工事(8月24日)
- ・正面玄関アスファルト舗装工事および障害者用駐車区画の新設工事(9月19日完了)

- ・建築保全業務の一部委託実施
- ・清掃業務の委託実施
- ・施設管理業務の委託実施
- ・電気およびガスの供給にかかわる業務委託実施
- ・一般廃棄物および産業廃棄物の適法かつ適切な処分の実施
- ・機密文書の処分の実施（8月4日・3月13日）
- ・敷地内除草作業の実施（毎月第一月曜日）・びわこを美しくする運動（6月27日）
- ・設計標準使用期限を超える消火器の交換（31台）
- ・本館誘導灯蓄電池修理の実施
- ・照明器具（蛍光灯・安定器）交換修理の実施
- ・各事務室空調機フィルター清掃の実施（年3回）
- ・エレベーター、自動ドア点検（年4回）・ステップリフトの点検（年2回）の実施
- ・非常用発電機疑似負荷試験の実施（5月31日）
- ・受水槽清掃（6月7日）の実施
- ・法定設備点検（害虫駆除）の実施（6月21日・12月13日）
- ・法定設備点検（受変電設備点検）の実施（6月22日）
- ・グラウンド整備工事の実施（1月31日）
- ・各事務室および誘導灯LED化改修工事の実施（3月14日・3月16日・3月27日）
- ・多目的トイレおよび事務室入口扉修繕工事の実施（3月26日・3月27日） 他

④消防訓練の実施

緊急事態発生時の在館者等の安全確保並びに財産の保全と被害軽減のため、消防訓練を実施。

実施日：令和7年7月23日（水）、12月18日（木）

⑤消防設備に関する点検等の実施

- ・消防用設備点検の実施（6月21日・12月13日）
- ・防火対象物点検資格者による防火対象物点検の実施（1月16日）

（3）縁特別会員およびの広報および会員の拡大、基金の増強

滋賀の縁創造実践センターの実践を支える新たな会員制度である「縁特別会員」制度の周知及び社協会員等、加入促進のため、広報誌やホームページ等での広報等を行った。

○縁特別会員数

	団体	社会福祉法人	企業	個人	賛助	合計
会員数	15	81	0	16	2	114

○社協賛助会員数

	団体	個人	合計
会員数	16	7	23

（4）滋賀県善意銀行の運営

県域で実施される民間団体等の地域福祉の向上を図る活動への支援のため、「滋賀県善意銀行」として、寄付・預託の受入れと助成を行った。

①寄付・預託の受入れ

- ・株式会社ツルハホールディングス・クラシエホールディングス 車椅子1台
- ・関西遊技機商業組合 車椅子5台、クッション5台
- ・滋賀県宅地建物取引業協会 青年部会 車椅子10台

②助成

- ・近畿母子生活支援施設研究大会 50,000円
- ・民生委員児童委員協議会連合会 近畿ブロック会議 50,000円

3. 職員育成・情報発信の取組

(1) 「ひたすらなるつながり」を支える職員研修の実施

人材育成基本方針に基づき、職階に応じた職務遂行能力の向上の為、下記の通り、職場内部研修の実施、階層別研修等への参加により、職員の資質向上を図った。また、メンター制度を導入し新規採用職員の定着を図った。

①新任職員研修

- ・第1回 令和7年4月3日(木)、4月7日(月)、4月17日(木)、5月8日(木) 7名
- ・第2回 令和7年8月4日(木) 3名
- ・第3回 令和8年1月6日(火) 6名

②全国社会福祉協議会・中央福祉学院主催研修への参加

- ・社会福祉主事資格認定通信課程 1名
- ・社会福祉法人会計実務講座 入門1名、初級1名、中級1名
- ・社会福祉協議会新任職員研修会 2名

③福祉人研修

- ・新任期 2名、中堅期 2名、チームリーダー2名、管理職1名

④目標管理評価者研修 令和7年5月28日(水) 17名

⑤人権研修 令和8年2月24日(火) 116名

テーマ「人権課題を正しく理解し、差別をなくすために私たちにできること」

講師 滋賀県人権センター 北村 久一 先生

⑥第33回部落解放研究滋賀県集会 令和8年2月21日(土) 10名

⑦広報研修「取材の仕方と記事の書き方」 令和7年10月28日(火) 25名

講師 フリーライター 小坂 綾子氏

⑧施設現場研修 信楽青年寮 令和8年2月18日(水)～19日(木) 1名

⑨社協役員研修(財務管理研修) 令和8年1月23日(金) 31名

⑩ハラスメント研修「カスタマーハラスメント研修」 令和8年2月25日(水) 23名

⑪えにしアカデミー 4期生 1名、5期生 1名

(2) 民間福祉事業・活動の振興

①県社会福祉協議会会長表彰

開催日 令和7年11月14日(金)

会場 ホテルニューオウミ

<被表彰者>

- ・民生委員児童委員…183名
- ・社会福祉施設、社会福祉事業職員、介護老人保健施設の現業職員…92名
- ・社会福祉協議会、社会福祉関係団体等の役員等…8名
- ・社会福祉協議会、社会福祉関係団体等の職員…16名
- ・ボランティア(個人)…7名
- ・ボランティアグループ…16団体

・社会貢献活動・ボランティア活動功績企業・団体…2件

<感謝>

- ・寄付 25 件
- ・地域福祉の推進に特に貢献している社会福祉法人または団体 1 名

なお、全国社会福祉協議会会長表彰には下記のとおり推薦を行った。

<本会から推薦を行い受賞された内訳>

民生委員児童委員功労者5名、社会福祉施設功労1名、社協・団体功労者7名、
永年勤続功労者9名、社会福祉協議会優良活動1社協

②滋賀県社会福祉関係団体施策検討委員会による予算要望活動の実施

市町社会福祉協議会、施設協議会、関係福祉団体など関係者とともに喫緊の福祉課題について認識を共有し、令和8年度に向けた社会福祉関係予算要望及び提案を協働で行った。

要望先	実施日	場所
自由民主党滋賀県議会議員団	令和7年6月5日（木）	滋賀県庁2階 議員室
チームしが 県議団	令和7年8月25日（月）	滋賀県庁2階 第5委員会室
滋賀県(健康医療福祉部長)	令和7年8月28日（木）	滋賀県危機管理センター
滋賀県(子ども若者部長)	令和7年8月28日（木）	滋賀県危機管理センター

③社会福祉施設等関係団体との協働

「滋賀県社会福祉法人経営者協議会」および「滋賀県児童成人福祉施設協議会」の事務局受託により各団体の運営に協力するとともに、事業が円滑に実施されるよう支援した。

④他団体が実施する助成事業への協力

- ・ダイトロン福祉財団障害者福祉助成審査への協力
- ・滋賀県遊技業協同組合福祉車両助成推薦への協力
- ・オーグス総研から「はじまるくんパソコン」寄贈への協力
- ・大阪ガスグループ福祉財団「高齢者福祉助成」への協力
- ・24時間テレビ「福祉車両贈呈」への推薦協力
- ・株式会社滋賀トヨタ車輦贈呈への推薦協力
- ・「しがぎん福祉基金」の助成の取りまとめと審査協力
- ・財団法人河本文教福祉振興会助成事業への推薦協力

⑤広報誌「季刊ひたすらなるつながり」の発行

〈第16号〉 令和7年8月発行 3,000部

特集 With Care ケアのある暮らし・働き方

〈第17号〉 令和8年1月発行 3,000部

特集 情報コミュニケーションツールの進化

⑥ホームページ等を活用した情報の発信

ホームページを活用し、本会事業に関する特例貸付情報等の緊急や最新のお知らせ、研修等事業の情報はじめ、本会の法人理念、経営計画、財務情報、寄付情報等を広く情報発信した。

本会の発信力を高めるため、facebook・Instagramを、週2回更新し、県社協活動についてSNSで積極的に発信した。

4. 関係機関との協働

(1) 民生委員児童委員研修の実施（県民児協連との協働）

①人権研修【集合研修+動画配信】

開催日 令和7年7月8日（火）

会場 栗東文化芸術会館さくら 中ホール

内容 講演 講演と尺八演奏 テーマ「私はこうしてバリアを壊す」

講師 安田 知博 氏

演奏 尺八演奏 安田 知博 氏（先天性視覚障害）

ピアノ演奏 福元 朝美 氏

参加者 222名

②民生委員・児童委員指導者（会長）研修【集合研修】

開催日 令和8年3月17日（火）

会場 草津市立総合交流センター（キラリエ草津）6階 大会議室

内容 （実践報告1）

テーマ タブレット導入による民生委員児童委員活動の環境改善と地域還元の実践

講師 守山市民生委員児童委員協議会 副会長 大谷 加代子 氏

（実践報告2）

テーマ 多文化交流サロンを通じた地域での見守り

講師 長浜市民生委員児童委員協議会 会長 堀 直美 氏

（グループ討議）

参加者 135名

③主任児童委員研修【集合研修】

開催日 令和8年1月30日（金）※午前、午後の2回に分けて開催【入替制】

午前の部：大津市・草津市・守山市・栗東市・東近江市 以上6市

午後の部：彦根市・長浜市・近江八幡市・甲賀市・野洲市・湖南市・高島市・米原市

日野町・竜王町・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町 以上8市6町

会場 草津市立総合交流センター（キラリエ草津）6階 大会議室

内容 講演 テーマ 「まるわかり主任児童委員ハンドブック改訂版」について

講師 主任児童委員活動ハンドブック作成委員会

委員長 中井 洋子 氏

（活動事例Ⅰ）

テーマ 「子育て広場における【大きなかぶ】と、びわっ湖ミンジー

活用の取組み」について

報告者 大津市青山地区民児成委員協議会 会長 上田 敏子 氏 ほか5名

（活動事例Ⅱ）

テーマ 腹話術「トンちゃんと愉快的仲間たち」
 報告者 前多賀町主任児童委員 富田 愛子 氏
 (グループ討議)

参 加 者 191 名 (午前：89 名 / 午後：102 名)

④児童委員研修【集合研修+動画配信】

開 催 日 令和7年8月21日(木)

会 場 栗東文化芸術会館 さくら 中ホール

内 容 講演 テーマ 「発達障害の子どもとの生活」

～子どもたちが社会で生きていくために～

講師 一般社団法人チャレンジド LIFE 代表 畠中 直美 氏

参 加 者 245 名

⑤新任研修【集合研修+動画配信】

管内	開催日時	会場	対象市町	参加人数
大津	12月21日(日)	明日都浜大津	大津市	203
	12月22日(月)	ふれあいプラザホール		
南部	12月17日(水)	栗東芸術文化会館 SAKIRA 中ホール	草津市・守山市 栗東市・野洲市	204
甲賀	12月24日(水)	碧水ホール	甲賀市	223
	12月20日(土)	サンライフ甲西	湖南市	50
東近江	12月19日(金)	五箇荘 コミュニティセンター 大ホール	東近江市・日野町 (近江八幡市・ 竜王町日程別途)	390
湖東	12月5日(金)	多賀町中央公民館 多賀結の森 ささゆりホール	彦根市・愛荘町 豊郷町・甲良町 多賀町	173
湖北	12月17日(水)	浅井文化ホール	長浜市・米原市	231
高島	12月10日(水)	ふじのきホール	高島市	90
総計				1,564

※大津市は、本会作成のDVDを使用し別途開催

(2) 教職員介護等体験事業の実施

- ・体験者数 802 名
- ・受入施設数 142 施設
- ・受入施設種別及び体験者数

施設種別	受入施設数	体験者数
生活保護施設	1	1
老人福祉施設	87	552
老人保健施設	10	34

障害福祉施設	37	198
児童福祉施設	7	17

5. 災害時における福祉的支援の推進

(1) 滋賀県災害ボランティアセンターの運営

①災害ボランティアコーディネーター基礎研修の開催

災害ボランティアセンターのコーディネートに必要な基本知識、スキルの習得を目的として開催。

日 時 令和7年8月5日（火）

場 所 滋賀県危機管理センター

参加者 24 名

内 容 報告 平成 30 年竜巻災害と令和 6 年伊吹土砂災害における被災地支援等について
米原市社会福祉協議会 主任 伏谷勇恭氏

講義「災害ボランティアセンターのあり方について学ぶ」

演習「災害ボランティアセンターの機能について学ぶ」

講師 コミュニティ・エンパワメント・オフィス FEELDo 代表理事 栗原 英文氏

②災害ボランティアセンターマネジメント研修

日 時 令和8年1月13日（火）

場 所 県立長寿社会福祉センター

参加者 25 名

講 師 一般社団法人 FEEL Do 代表理事 栗原 英文氏

内 容 講義「災害時の住民支援に向けた社協の福祉支援体制づくり～社協に求められる
災害時の組織マネジメント力と社協の強みを活かした支援活動とは何か～」

実践報告「今までの経験とこれからの活動について」

～西日本豪雨の教訓と反省、林野火災でみてきたもの、そして今後の活動について～

報告者 社会福祉法人今治市社会福祉協議会 地域福祉係長 八木 良太氏

③県災害ボランティアセンター運営協議会の開催

・第1回運営協議会

開催日 令和7年5月14日（水）13：30～15：30

場所 危機管理センター

内容 災害福祉支援の動向について

令和6年度事業報告および令和7年度事業について

グループワーク：各構成団体の役割についての再確認

～災害中間支援組織としての役割を考えながら～

・第2回運営協議会

開催日 令和7年8月26日（火）13：30～16：00

場所 危機管理センター

内容 災害対策法の一部改正について

災害中間支援組織について 講義：JVOAD 明城徹也氏

能登半島地震被災地の状況と支援活動について

活動報告：災害NGO結 前原土武氏

・第3回運営協議会（担当者会議）

開催日 令和8年1月20日（火）13：30～15：00

場所 危機管理センター

内容 滋賀県災害ボランティアセンター非常時移行・機動運営訓練
（滋賀県総合防災訓練）について

・第4回運営協議会

開催日 令和8年3月18日（水）13:30～15:00

場所 県立長寿社会福祉センター

内容 滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会規程の変更について
令和7年度活動報告
令和8年度活動と滋賀県災害福祉支援センターについて

④県災害ボランティアセンター機動運営訓練の実施

災害ボランティアセンターの手順の確認、困難な状況への対応ノウハウの蓄積を目的として実施。

日 時 令和8年2月1日（日）

場 所 滋賀県危機管理センター

参加者 24名

内 容 非常体制移行訓練、初動活動訓練、現地災害VCからの依頼対応訓練、状況付与対応訓練、平常時移行訓練

⑤市町災害ボランティアセンター設置運営訓練の促進

市町災害ボランティアセンター設置運営訓練に参加し、訓練で気づいた改善事項について助言した。

訓練参加：愛荘町、大津市、多賀町、草津市、守山市、野洲市 各災害ボランティア

（2）災害時要配慮者支援の推進

①県災害時要配慮者支援ネットワーク会議の開催

要配慮者の避難及び避難生活について、平常時から支援者および当事者が課題を共有し連携を深めることで、災害時に円滑に支援できるようにすることを目的として開催した。

【全体会議】

日 時 令和7年9月22日（月）

会 場 滋賀県立県民交流センター大会議室（ピアザ淡海3階）

参加者 85名

内 容 実践報告「能登半島地震被災地における福祉支援」

コーディネーター：一般社団法人 FEEL Do 代表理事 栗原 英文 氏

報告者： きぬがさ作業所 所長 堀尾 毅 氏

災害 NGO 結 代表 前原 土武 氏

行政説明「滋賀県における災害時要配慮者支援対策について

～個別避難計画等の現状と災害対策基本法等の改正～」

説明者：滋賀県 防災危機管理局 主事 山本 雅貴氏

滋賀県 健康福祉政策課 主事 森 彩花 氏

説明「滋賀県における災害福祉支援の構想について」

説明者：滋賀県社会福祉協議会 事務局次長 高橋 宏和
グループディスカッション「災害時に生きる包括的な災害時の福祉支援体制を考える」
コーディネーター：一般社団法人 FEEL Do 代表理事 栗原 英文 氏

②圏域における要配慮者支援会議の開催

- ・甲賀市避難行動要支援者支援ネットワーク会議（共催：甲賀市）

日 時 令和8年1月27日（火）14：00～16：00

場 所 甲賀市役所 会議室

参加者 17名

内 容 講義「誰一人取り残さない福祉と防災の越境について」

同志社大学社会学部 教授 立木 茂雄 氏

- ・BCPの実現に向けた個別避難計画の実践研修【共催；甲賀市】

日 時 令和8年2月13日（金）14：00～16：00

場 所 みなくるプラザ 集会室

参加者 49名

内 容 基調講演「誰一人取り残さない防災～個別避難計画とBCPとの連動～」

同志社大学社会学部教授 立木茂雄氏

報告「甲賀市の取り組みと今後の方向性について」

甲賀市健康福祉部地域共生社会推進課

③えにしの日、えにし月間における防災の取り組み

3月11日を「えにしの日」、3月を「えにし月間」として、災害時に困難を抱える人の視点で、非常時に備えた訓練や研修を行う団体に対して助成。

取組み団体 31 団体（うち2団体は助成金なし）

<重点取組>

- ・地域コミュニティを意識した防災学・子どもの防災教育
- ・事業継続計画・業務継続計画（BCP）等、マニュアルの検証・見直し
- ・個別避難計画を活用した訓練・学習会
- ・子どもの防災教育

④しがDWAT チーム員養成研修等の開催

- ・チーム員登録状況 298 名登録（令和8年3月時点）

【滋賀県災害派遣福祉チーム（しがDWAT）養成研修】

日 時 令和7年7月31日（木）

会 場 COZY TOWN 研修室

参加者 33名

講 師 一般社団法人 FEEL Do 代表理事 栗原 英文氏

くらしの学びサポートオフィス HumanBeing 代表 菅原 清香氏

内 容 導入・講義「被災者の支援と災害派遣福祉チームの機能」

実践報告「令和6年能登半島地震へのDWAT派遣について」

報告者 特別養護老人ホーム 伊香の里

平林 孝康 氏

ケアプランセンターカルナハウス

前田 岳史 氏

小規模多機能型居宅介護事業所ぶどうの家 芹橋 居川 勉 氏

講義「災害の進行と被災者が置かれる状況の理解、被災者支援の視点」

「災害時要配慮者支援と変遷」、「避難所における被災者支援」

演習「災害の進行と被災者が置かれる状況の理解」「福祉の専門性を確認するディスカッション」

【滋賀県災害派遣福祉チーム（しがDWAT）フォローアップ研修】

日 時 令和8年3月11日（水）

会 場 滋賀県危機管理センター1階プレスルーム

参加者 58名

内 容 「地域で活躍する支援者から在宅避難者支援を学ぶ（仮）」

講 師 一般財団法人FEEL Do 代表理事 栗原 英文氏

実践報告者 NPO法人草津市中心身障害児者連絡協議会草津市基幹相談支援センター

中村 宗寛氏

甲賀市社会福祉協議会甲賀市甲賀地域包括支援センター所長 植田 裕一氏

日野町社会福祉協議会 地域福祉課 橋元 成子氏

社会福祉法人慈照会ケアプランセンターカルナハウス 前田 岳史氏

医療法人滋賀家庭医療学センター訪問看護ステーションゆげ 雨森 千恵美氏

滋賀県立聴覚障害者センター所長 中西 久美子氏

滋賀県民生委員児童委員協議会連絡会会長 小林 江里子氏

一般社団法人ケア SNAP たかしま 理事 西村 陽子氏

ファシリテーター 医療法人滋賀家庭医療学センター訪問看護ステーションゆげ 雨森 千恵美氏

社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮 岩永 信也氏

社会福祉法人近江和順会 特別養護老人ホーム美松苑 河岸 寛之氏

NPO 法人草津市中心身障害児者連絡協議会 草津市基幹相談支援センター 中村 宗寛氏

社会福祉法人慈照会 ケアプランセンターカルナハウス 前田 岳史氏

【滋賀県災害派遣福祉チーム（しがDWAT）フォローアップ研修 企画会議】

・第1回 日 時 令和8年1月9日（金）

会 場 滋賀県福祉用具センター

・第2回 日 時 令和8年2月4日（水）

会 場 県立長寿社会福祉センター

⑤災害派遣福祉チーム（しがDWAT）在宅避難者支援訓練の実施

DWAT のガイドライン改訂により、支援活動の範囲に在宅避難者や車中泊避難者等、避難所に滞在することのできない被災者支援が加わったことを受け、在宅避難者への支援訓練を行った。

日 時 令和8年3月11日（水）

内 容 導入講義「避難所に滞在することが出来ない被災者の支援」

指導者 一般財団法人FEEL Do 代表理事 栗原 英文氏

ファシリテーター 医療法人滋賀家庭医療学センター訪問看護ステーションゆげ

雨森 千恵美氏

社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮 岩永 信也氏

社会福祉法人近江和順会 特別養護老人ホーム美松苑 河岸 寛之氏

NPO 法人草津市中心身障害児者連絡協議会 草津市基幹相談支援センター 中村 宗寛氏
 社会福祉法人慈照会 ケアプランセンターカルナハウス 前田 岳史氏

参加者 58 名

修学・生活資金課

1. 生活福祉資金貸付事業・要保護世帯向け不動産担保型生活資金の実施

低所得者、障害者又は高齢者に対し、経済的自立及び生活意欲の助長促進並びに在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるように、資金の貸付と必要な相談支援を実施した。

(1) 生活福祉資金・要保護世帯向け不動産担保型生活資金貸付決定推移（本則）

(千円)

	R5		R6		R7	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
総合支援	0	0	0	0	0	0
福祉資金	83	33,633	64	19,709	102	33,214
緊急小口	95	9,197	67	6,323	76	7,030
教育支援	240	244,004	316	334,778	410	443,396
要保護世帯不動産担保型	0	0	0	0	1	6,083
合計	418	286,834	447	360,811	589	489,723

(2) 滋賀県貸付審査等運営委員会（定例）の開催（毎月1回）

令和7年度 審査会案件 20 件 会長専決案件 569 件

(3) 生活福祉資金・要保護世帯向け不動産担保型生活資金の債権管理

- ・借受人の状況把握と対応（居住地調査、督促、債務整理への対応など）
 居住地調査（年1回）、貸付残高のお知らせ（年2回）、督促状（年2回）
 コンビニ払込票（毎月償還不能先）
- ・本則 職権免除対象者（自己破産等）9人 7,419 千円

(4) 生活福祉資金担当者研修会及びスキルアップサロンの開催

《市町村協生活福祉資金実務者研修会》・・・主に資金貸付新任担当者向け研修

令和7年6月24日 市町村協生活福祉資金実務者研修会実施

- ・貸付事業の流れとポイント
- ・貸付事業の制度概要と留意事項
- ・生活福祉資金の動向・償還について

《スキルアップサロン》・・・市町社協資金担当者間の情報交換及びスキルアップ

令和7年10月22日 第一回スキルアップサロン
 テーマ・・・業務の困りごと、対応方法について

令和7年12月4日 第二回スキルアップサロン
 テーマ・・・事例検討会

令和8年2月5日 第三回スキルアップサロン
 テーマ・・・相談支援のコツについて

(5) その他

長期滞留債権比率推移

※長期滞留債権…償還（返済）開始以降、1年以上1度も償還（返済）がない債権
 (千円)

	R5	R6	R7
健全債権	2,066,788	2,136,219	2,234,265
長期滞留債権	1,563,877	1,605,763	1,639,020
貸付合計	3,630,666	3,741,982	3,873,285
長期滞留債権比率	43.1%	42.9%	42.3%

2. 児童養護施設退所者等自立支援資金貸付事業の実施

児童養護施設や自立支援ホーム等を退所し、就職や進学する者が、安定した生活基盤を築き、円滑な自立が図れることを目的とし貸付事業を実施した。

近年は、措置期間の延長や給付型事業制度の拡充等の影響により、申請者希望数は減少基調にあるとともに、本貸付制度が措置解除後5年間は申請可能ということの理由で、施設退所直後の貸付申請には至っていない。

(1) 児童養護施設退所者等自立支援貸付事業の状況

新規貸付決定額推移 (千円)

貸付事業名	R4		R5		R6		R7	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
生活支援費	6	7,850	8	14,100	4	5,822	7	8,834
家賃支援費	11	10,868	11	13,190	10	9,096	11	10,840
資格取得費	10	1,521	9	1,301	9	1,550	2	257
計	27	20,240	28	28,591	23	16,468	20	19,931

(2) 児童養護施設退所等自立支援資金貸付事業の広報

つながり若者センターとの協働により、児童養護施設・自立支援ホーム等に在籍する子ども及び職員に対し制度の周知・説明ならびにつながり若者センター（マザーボード・コージータウン）の居場所づくり・貸付相談活動紹介を行った。

児童養護施設等・里親等支援者向け説明会の実施【計5回】

対象者 施設職員

開催日・場所

- ①令和7年5月2日 児童養護施設 鹿深の家
- ②令和7年5月27日 児童養護施設 湘南学園
- ③令和7年6月27日 自立援助ホーム ななほし
- ④令和7年11月20日 児童養護施設 小嶋の家
- ⑤令和7年12月26日 児童養護施設 守山学園

3. 保育士修学資金等貸付事業の実施

保育士の充足、待機児童数の減少を資することを目的に、将来保育士として児童の保護等の業務に従事しようとする者に修学資金、潜在保育士には保育料の一部貸付・就職準備金貸付、保育施設等には保育補助者雇上費貸付を実施した。養成施設を卒業後、滋賀県内の施設等において保育業務に一定期間以上（修学資金5年、その他貸付2年）従事した場合は貸付金が免除となる。修学資金においては、保育士養成施設の短期大学の学生募集停止や少子化の影響が加速している。また、修学（養成校在学）期間中の卒業後の進路変更等による新規の貸付返還決定者も増加。

(1) 保育士修学資金等貸付事業の状況

保育新規貸付決定推移

(千円)

貸付事業名	R4		R5		R6		R7	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
保育士修学資金	99	115,472	97	134,316	107	156,156	89	127,224
保育補助者雇上	2	17,714	2	17,635	2	17,655	2	16,828
保育料一部貸付	84	18,608	76	17,467	101	23,002	77	15,821
就職準備金貸付	67	24,597	30	10,444	42	11,193	35	9,656
子どもの預かり	0	0	0	0	0	0	0	0
計	252	224,846	205	176,391	252	208,006	203	169,529

※令和7年度保育士修学資金 新規受付主要養成校別実績

	R4	R5	R6	R7		R4	R5	R6	R7
滋賀短期大学	22	19	21	17	龍谷大学短期大学	8	1	5	0
華頂短期大学	8	13	4	5	京都文教短期大学	2	7	1	4
滋賀文教短期大学	6	7	10	8	その他	38	39	49	46
びわこ学院大学短期	15	11	17	9	合計	99	97	107	89

(2) 保育士修学資金等資金返還免除推移

(千円)

返還免除	R4		R5		R6		R7	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
保育貸付 5種累計	224	212,171	227	213,546	257	206,593	232	199,860

(3) 保育士修学資金等資金返還推移

(千円)

返還	R4		R5		R6		R7	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
保育貸付 5種累計	611	33,731	462	38,010	454	20,907	457	26,224

(4) 保育士修学資金等貸付事業の広報

①滋賀県保育協議会との連携による求職者への情報提供・就職フェア参加

令和8年1月31日 イオンモール草津（保育のしごとマッチングフェスタ）

②県内保育所等への潜在保育士向けの募集要項・貸付広報チラシ配布を実施。

令和7年4月15日 滋賀県内の保育施設約500園（施設）あて

③近畿圏および東海・北陸方面のこども家庭庁指定の保育士養成校に対する新規入学者および在校生あて進級者に対する広報チラシ・広報ポスター配布による広報活動を実施

令和8年3月18日 県内および近隣の保育士養成校約180校あて

4. 介護福祉士修学資金等貸付事業の実施

介護人材育成、確保及び定着を支援するため、介護福祉士養成施設に在学し、介護福祉士養成施設に在学し、介護福祉士の資格取得を目指す学生に対しての修学資金貸付事業を実施した。介護福祉士修学資金の申請件数は増加基調にあり、外国人留学生の申請件数増加が影響している。

離職による新規返還決定者も一定数存在し、業界内での介護人材確保に向けた職場環境の整備状況等の勤務環境はまだ課題にあると思われる。

これらの貸付金は、滋賀県内の施設等において介護等の業務に一定期間以上（修学資金5年、福祉系高校3年、その他貸付2年）従事した場合は貸付金が免除となる。

(1) 介護福祉士修学等貸付の状況

介護新規貸付決定推移

(千円)

貸付事業名	R5		R6		R7	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
介護福祉士修学	33	52,520	55	84,500	52	83,946
福祉系高校修学	1	300	0	0	0	0
実務者研修	82	12,712	110	16,046	105	14,543

介護人材再就職	16	5,647	8	2,061	7	2,084
介護分野就職	14	2,746	10	1,557	10	1,541
障害分野就職	9	1,666	4	461	5	878
福祉系返還充当	1	300	1	360	0	0
計	155	75,891	188	104,985	179	102,992

令和7年度介護福祉士修学資金新規受付養成校実績 (件数)

	R5	R6	R7		R5	R6	R7
華頂社会福祉 専門学校	10	29	30	京都医療福祉 専門学校	4	5	4
びわこ学院大学 短期大学部	7	11	7	その他	8	6	8
京都福祉専門学校	4	4	3	合計	33	55	52

(2) 介護福祉士修学等資金返還免除推移

(千円)

返還免除	R5		R6		R7	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
介護貸付7種累計	209	88,715	180	66,462	172	69,764

(3) 介護福祉士修学等資金年間返還件数推移

(千円)

返還	R5		R6		R7	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
介護貸付7種累計	244	15,012	197	8,139	204	13,630

(4) 介護福祉士修学資金貸付事業の広報

- ①厚労省指定の養成校、施設事業者、各関連施設等への募集要項や広報チラシの配布、福祉のしごと登録事務所あてへの一斉メール発信による貸付広報。
- ②人材センターとの協調し、人材確保に向けた取組と離職時の届出数（制度）増加に向けた新規登録の呼びかけと貸付書類として取入をした。

特例貸付相談支援室

1. 特例貸付債権管理業務

特例貸付については、令和7年1月より一部の償還猶予者および免除者を除き、すべての債権が償還開始となり、償還残債がある借受人には償還残高のお知らせを、滞納がある借受人には督促状をいずれも年2回送付した。

また、特例貸付事務センターにおいて、償還金管理および償還免除・償還猶予手続きに関する事務手続き、ならびに審査業務を行うとともに、償還が滞納し、かつこれまで一度も面談ができていない

借受人に対して架電を行い、面談日時・場所の調整を行った。なお、調整がついた借受人には、訪問支援員が面談し、生活状況等について聞き取った。

(1) 特例貸付債権状況

債権状況	債権数	概算世帯数	全債権割合
	59,030	21,889	100%
免除	25,659	9,839	43.47%
返済猶予	529	264	0.90%
償還実績あり	14,872	7,919	25.19%
償還実績なし	11,589	5,086	19.63%
繰り上げ返済先	5,694	5,355	9.65%
債務整理先	687	265	1.16%

※数値は令和8年3月末時点

なお、貸付金額 24,096,857 千円のうち、令和8年3月末時点の償還実績額は 2,614,613 千円 (10.8%)、免除額は 10,486,810 千円 (43.5%) であった。

(2) 猶予・免除に関する休日相談会

償還困難な利用者に対して、猶予・免除に関する休日相談会を3か月に1回、県内2か所（草津・彦根）にて開催し、延べ73名の参加者の相談に応じた。

休日相談会（全8回）

令和7年6月21日（土）	県立長寿社会福祉センター	参加者 5名
令和7年6月29日（日）	COZY TOWN	参加者 9名
令和7年9月20日（土）	COZY TOWN	参加者 12名
令和7年10月5日（日）	県立長寿社会福祉センター	参加者 10名
令和7年12月6日（土）	県立長寿社会福祉センター	参加者 12名
令和7年12月14日（日）	COZY TOWN	参加者 12名
令和8年3月7日（土）	COZY TOWN	参加者 7名
令和8年3月15日（日）	県立長寿社会福祉センター	参加者 6名

2. 特例貸付フォローアップ支援

特例貸付利用者へのフォローアップ支援の一環として戸別訪問を行い、借受人やその家族の生活状況の把握や、免除や猶予、住所変更等の手続きが未了の借受人については手続きの勧奨および支援、また生活上の困りごとを把握した際には市町社協や関係機関と情報共有・連携の上、相談対応を行った。

そのほか海外にルーツを持つ利用者への対応として、外国語対応が可能な職員による訪問、またコールセンターでの多言語対応を行った。

加えて、身近な相談先においても多言語対応可能となるよう、多言語映像通訳タブレット端末を各市町社協へ貸与した。

(1) 生活再建支援事業（令和7年7月より事業開始）

フォローアップ支援を実施してもなお生活状況が悪化している、多重債務による返済等で生活が困窮している借受人に対して、生活再建相談員が市町社協や関係機関等との連携のもと、寄り添い型の支援を実施することにより、様々な生活課題の解決を図り生活再建へとつなげた。

相談受付件数	終結件数
71 件	46 件

・生活再建支援事業スタートアップ研修会

日 時 令和7年8月1日（金） 10：00～12：00

会 場 滋賀ダイハツアリーナ 大会議室

参加者 61 名（市町社協および関係機関 35 名、県社協 26 名）

内 容 講義 多重債務にかかる昨今の動向

講師 一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク 理事 生水 裕美氏
事例検討・グループワーク

(2) 特例貸付利用者に対するフォローアップ支援（訪問）件数（令和7年度実績）

訪問件数	面談成立数	面談率
15,891 件	4,217 件	26.5%

(3) フォローアップ支援情報共有ツール「福祉フォロークラウド」の導入

フォローアップ支援の市町社協とのスムーズかつリアルタイムな情報共有や訪問支援チームの外出先での借受人情報閲覧および各種申請書発行等、フォローアップ支援を効率的に進めるためのツールである「福祉フォロークラウド」を令和7年7月より導入した。

(4) 訪問支援員スキルアップ研修

①第1回

日 時 令和7年12月5日（金） 14：00～16：00

会 場 県立長寿社会福祉センター 介護研修室

内 容 社会保障制度の概要と障害年金について

講 師 社会保険労務士法人心陽 社会保険労務士・社会福祉士 藤岡タ里子氏

②第2回

日 時 令和8年3月24日（火） 14：00～16：00

会 場 県立長寿社会福祉センター 第2研修室

内 容 債務整理手続きの実際と福祉支援者の役割について

講 師 せせらぎ法律事務所 弁護士 室田剛志氏

(5) イオンモール草津・フードバンク滋賀と連携したフードドライブの実施

イオンモール草津ならびにフードバンク滋賀のフードロスの取り組みに協力し、集まった食料は、生活再建支援事業および滋賀の子どもはぐくみプロジェクトにて活用した。

日 時 令和7年10月18日(土)・19日(日) いずれも10:00~16:00
場 所 イオンモール草津1回 イオンクレジットカウンター横

3. 特例貸付利用者に対する福祉的支援に関する調査研究

(1) 事例分析会

これまでのフォローアップ支援のなかで具体的な行動・支援内容として有効であった内容を整理し、本会ならびに市町社協の今後のフォローアップ支援に活かすことを目的に開催した。

日 時 令和7年12月17日(水) 14:00~16:00

会 場 県立長寿社会福祉センター 介護研修室

内 容 事例分析

事例提供者 大津市社会福祉協議会 黄瀬寿子氏

湖南市社会福祉協議会 大矢京加氏、古家加奈子氏

滋賀県社会福祉協議会 扇田宗親氏

アドバイザー 日本福祉大学健康社会研究センター センター長 斉藤雅茂氏

主任研究員 福定正城氏

参加者 28名

(2) 特例貸付利用者支援のこれからを考える意見交換会

3年間の調査研究結果ならびにフォローアップ支援の実践から見えてきたことを踏まえ、生活再建支援において求められていることや困難、支援者が抱えているジレンマを共有し合いながら、フォローアップ支援の今後を描くことを目的に開催した。

日 時 令和8年3月18日(水) 14:00~16:45

会 場 キラリエ草津 502・503 会議室

内 容 報告1「アンケート調査結果ならびに深堀分析の結果報告」

報告者 日本福祉大学 健康社会研究センター センター長 斉藤雅茂氏

報告2「滋賀県での特例貸付フォローアップ事業の進捗について 事例分析結果報告」

報告者 滋賀県社会福祉協議会 特例貸付相談支援室 室長 加藤芳顕

意見交換①「支援の中で感じている課題やジレンマについて」

意見交換②「今後3年間の支援計画について」

参加者 47名

地域福祉課

(滋賀県ボランティアセンター)

(滋賀県権利擁護センター)

1. 第44回滋賀県社会福祉学会の開催

(1) 滋賀県社会福祉学会 第44回大会の開催

開催日 令和8年2月20日(金)

会 場 県立長寿社会福祉センター

参加者 271人

開催方法 完全参集型

① 自由研究発表 11題、実践報告 16題 全5分科会 27題

② 奨励賞の授与

受賞者 3名

・「特別支援学校に勤務する教師の支援観の探究について」』

滋賀県立草津養護学校 森本 晃介氏

・誰一人取り残さない防災を目指して～ローリスク・ミドルリスク層への、マイタイムラインシートを活用した個別避難計画の展開について～」

社会福祉法人高島市社会福祉協議会 西村 一真氏

・「タブレット導入による民生委員・児童委員活動の環境改善と地域還元への実践～単位民児協におけるICT活用(タブレット端末導入)の実践と経過報告～」

守山市小津学区民生委員児童委員協議会 大谷 加代子氏

(2) 「学会発表準備講座―発表要旨の書き方と発表のポイントを学ぶ―」の開催

開催日 令和7年10月20日(月)

会 場 県立長寿社会福祉センター 第1研修室

内 容 講義「発表要旨の書き方と発表のポイント」

講師 岡山県立大学 准教授 口村 淳 氏

参加者 14名

2. 滋賀社会福祉研究第26号の発行

滋賀県における福祉実践の研究ならびに実践の結合と研究者と社会福祉事業従事者等との連携を図り、社会福祉を高めることを目指す「滋賀社会福祉研究」を3年ぶりに新たな姿で復刊した。

発刊日 令和8年2月

テーマ 「ケアを支える地域福祉実践」

内 容 ・論文「ケアラー支援」という政策動向と新たな支援論

―ケアのある暮らしを社会の標準に―

立命館大学 名誉教授 津止 正敏

・「ケアのある暮らし」を支える実践報告

・「滋賀県社会福祉学会」奨励賞レポート 等

3. 近畿地域福祉学会滋賀大会の開催

(1) 近畿地域福祉学会滋賀大会 開催

開催日 令和7年12月20日(土) 13時30分～16時30分

場所 ヒアザ淡海 大会議室 他

参加者数 159名 (交流会 42名)

テーマ 「だれもが尊ばれる地域福祉の展開～子ども・若者に視点を置いて」

内容 午前：自由研究発表・実践活動報告(18発表)

午後：基調講演・パネルディスカッション

・基調講演

「地域福祉の展開 尊ぶ、対話の大切さ ～デンマークの実践を交えて」

京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 教授 酒井久美子氏

・パネルディスカッション

「だれもが尊ばれる地域福祉の展開～実践者とともに学び合う」

【パネリスト】

特別養護老人ホーム真野しょうぶ苑 施設長 湯浅潤一氏

真野地区民生委員児童委員協議会 主任児童委員 井上千浪氏

ホットフィールド 子ども・若者支援ヒューマンネット

かんちゃんの小さな家 運営スタッフ 平田イヴィ氏

滋賀県社会福祉協議会 つながり若者センター

相談支援コーディネーター 九鬼良氏

【コーディネーター】

龍谷大学 社会学部 非常勤講師 金子秀明氏

(2) 近畿地域福祉学会滋賀大会 開催

滋賀県市町社会福祉協議会会長会より参加費助成を実施。10名が参加した。

4. 社会福祉協議会職員の研修と交流(滋賀県市町社会福祉協議会会長会事務局)

(1) 社会福祉協議会職員の研修と交流

① トップセミナーの開催

開催日 令和7年7月24日(木)

会場 滋賀ダイハツアリーナ

内容 「地域共生社会の実現に向けた地域福祉施策の動向と

社協の役割について」

講師：同志社大学 社会学部 教授 永田祐 氏

参加者 74名

② 市町社協新任職員研修の実施

<1日目>

開催日 令和7年7月3日(木)

会 場 甲賀市社会福祉協議会

内 容

<午前>

「先輩職員からのメッセージ

～業務別、テーマ別に分かれていろいろ聞いてみよう！～」

<午後> 接遇対応&仕事の進め方研修

講師：株式会社しがぎん経済文化センター 河野 若奈 氏

参加者 30 人

<2日目>

日 時 令和7年11月25日（火）

場 所 COZY TOWN

内 容

講演「社会福祉協議会によろこそ！」

講師：彦根市社会福祉協議会 平野 美喜 氏

ディスカッション（ワールドカフェ方式）

参加者 29 人

③ コミュニティワーク基礎研修の開催（県社協との共催）

日 時 令和7年8月1日（金）

場 所 県立長寿社会福祉センター

内 容

- ・講義Ⅰ「社会の情勢と地域福祉」
- ・講義Ⅱ「地域福祉と社会福祉協議会」
- ・演習Ⅰ「コミュニティワーク実践のプロセスの理解」
- ・講義Ⅲ 意見交換

講 師 武庫川女子大学 文学部 教授 松端 克文 氏

話題提供 長浜市社会福祉協議会 地域福祉課 藤田 みどり 氏

参加者 14 人

④ 事務局長会議の開催

第1回

開催日 令和7年5月8日（木）

会 場 県立長寿社会福祉センター

内 容 市町社協関係事業等について

⑤ 地域福祉担当者会議の開催（県社協との共催）

県内市町社協 地域福祉担当の学び合いとタテ・ヨコ・ナナメの関係強化を目的として、担当者会議を年3回開催。

第1回

開催日 令和7年10月10日（金）

開催方法 滋賀ダイハツアリーナ

内 容 講義「社協が進める地域福祉とは」+演習

講師 佛教大学社会福祉学部 准教授 金田喜弘 氏

参加者 47人

第2回

開催日 令和7年12月8日（月）

会 場 滋賀ダイハツアリーナ

内 容 演習「私たちにとっての住民主体とは」

講師 佛教大学社会福祉学部 准教授 金田喜弘 氏

参加者 37名

第3回

開催日 令和8年2月6日（金）

会 場 滋賀ダイハツアリーナ

内 容 実践報告 「市辺地区での見守り合いの推進
～生活支援サポーターの活動と拡がり」

報告者 東近江市社会福祉協議会 地域福祉課

主任主事 柴田遥 氏、主事 谷口穂乃花 氏

演習

講師 佛教大学社会福祉学部 准教授 金田喜弘 氏

参加者 45名

⑥ 社会福祉協議会 役員等研修の開催

役員改選年度を受けて、社会福祉協議会の理事・監事・評議員の役割・責任と財務管理等必要な知識の習得を目的として開催。

日 時 令和8年1月23日（金）10：00～15：30

会 場 県立長寿社会福祉センター・オンライン（ZOOM）

内 容

・講義「社協経営と理事・監事・評議員の役割と責任」

講師 中部学院大学 人間福祉学部人間福祉学科 教授 佐甲学 氏

・講義「社協役員の財務管理」

講師 公認会計士渡部博事務所 所長 渡部博 氏

参加者 99名（来場52名、オンライン参加者38名）

⑦ 会長・事務局長合同会議の開催（幹事：長浜市社協）

開催日 令和7年11月21日（金）

会 場 慶雲館

内 容 ①開会挨拶

②「長浜市の地域づくり事業～デザインについて」

【報告者】

長浜市社会福祉協議会 事務局長 清水 学 氏
専門監 山岡 伸次氏

③意見交換

5. 社会とのつながりづくりの推進

(1) ひきこもり者と家族が孤立しない地域支援体制づくり事業の推進

①ひきこもり電話相談の実施

・定期電話相談（週1回）

実施曜日・時間 毎週木曜日13時～17時

相談件数 97件（新規35件、継続45件、問合9件、調整8件）

※新規には一斉電話相談の件数を含む。

・県内複数地域での一斉電話相談会（年2回）

ひきこもりに悩む当事者や家族の不安感を少しでも和らげ、また啓発を目的とし一斉電話相談を実施した。

14機関

実施機関：大津市社会福祉協議会、彦根市社会福祉協議会、
草津市社会福祉協議会、守山市社会福祉協議会、
栗東市社会福祉協議会、甲賀市社会福祉協議会、
野洲市社会福祉協議会、東近江市社会福祉協議会、
米原市社会福祉協議会、日野町社会福祉協議会、
愛荘町社会福祉協議会
つながり応援センターよろず（高島市社会福祉協議会）、虹の会、
NPO法人宅老所心、滋賀県社会福祉協議会

実施日（第1回） 令和7年9月11日（木）、12日（金）相談件数10件

（第2回） 令和8年2月12日（木）、13日（金）相談件数12件

②保健福祉圏域におけるアウトリーチ支援体制づくり

訪問支援（アウトリーチ）を1圏域で実施した。

・高島圏域 虹の会による個別支援の実施

支援対象者：4人

訪問実績：年間延べアウトリーチ回数 4名 全55回

※「自宅に来られるのは抵抗がある」という人には、支援員がMIZU café cocco（「虹の会」が運営するカフェ）へアウトリーチし、そこで面談されるなど工夫して実施。

③保健福祉圏域におけるひきこもり支援関係者のネットワークづくり

・各保健福祉圏域における支援関係者のネットワーク構築

県ひきこもり支援センターと連携のもと、各圏域におけるひきこもり支援に関わるネットワーク会議に参加し、先進事例の情報収集および他圏域への情報提供を行った。

また、事業の具体化にあたってのバックアップおよび関係機関の調整に加え、電話相談ケースにかかる支援調整および一斉電話相談参画機関の拡大を図った。

i ネットワークづくり

ア. 各圏域のひきこもり支援に関わるネットワーク会議に参加

実践や課題の共有、情報・意見交換、1 機関で抱えない連携した支援を実施するためのネットワークの構築および強化を図った。

〔湖南圏域〕 湖南地域ひきこもり支援フォーラム実行委員会

湖南圏域ひきこもり支援者連絡会

〔甲賀圏域〕 甲賀市ひきこもり支援ネットワーク会議

はたらく体験プロジェクト事務局会議

〔湖東圏域〕 彦根市ひきこもり支援ネットワーク会議

アウトリーチ支援チーム会議

〔湖北圏域〕 湖北地域ひきこもり情報交換会

〔高島圏域〕 つながり応援支援者ネットワーク会議

イ. フォーラム開催支援等

- ・ 湖南圏域において実行委員会（草津・栗東・守山・野洲の4市社協、県社協）を設置し、フォーラムを開催

講 演 第7回 ひきこもり支援を考えるフォーラム

『ひきこもりの経験から、感じたこと、考えたこと』

講 師 ひきこもり経験者・社会福祉士・精神保健福祉士

岡本 圭太 氏

開催日 令和8年2月8日（日）

会 場 栗東芸術文化会館さくら 中ホール

参加者 76名

ii 地域における啓発、居場所づくり等への支援

- ・ 助成団体 17団体
- ・ 助成額 1,590,000円

- ・ 支援者同士の情報共有・連携を目的としたひきこもり支援に関する社会資源マップの配布、県内の支援機関が活用できるプラットフォームの運用

i 『滋賀県ひきこもり支援資源マップ』の更新

研修会、各種会議において適宜配布

ii 『ひきこもり者等支援者ネットワークしが』の運用

④ 県域および保健福祉圏域での家族支援の実施

誰もが利用しやすく、安心して参加でき、そして互いに共感し自己肯定感を感じることが出来る場として地域の支援機関と協力し家族教室を実施した。

本会場とあわせてサテライト会場を複数カ所設置（オンライン活用）

i 開催日 令和7年10月25日（土）

会 場 本会場：近江八幡市

サテライト会場（7カ所）：大津市、長浜市、栗東市、湖南市、高島市
東近江市、米原市

講 師 KHJ埼玉けやきの会家族会 田口 ゆりえ 氏

「わが子のひきこもりと親の高齢化～どうむきあい、どうよりそうか～」

参加者 59名

ii開催日 令和8年2月10日（火）

会 場 本会場：県立精神保健福祉センター

サテライト会場（7カ所）：7保健所

講 師 大阪経済大学 人間科学部 岩田 光宏 氏

「ひきこもり再考～生きづらさからの回復」

参加者 47名

⑤働く場づくり「はたらく体験」、居場所づくりの推進

・県社協はたらく体験の企画実施

実施数 月1回 計12回

参加者 のべ74人

内 容 屋外作業：緑の杜散策路整備および腐葉土作製

※腐葉土（103袋、総額30,900円を売り上げ、はぐくみ
基金に寄付）

屋内作業：はぐくみプロジェクトTシャツ等封入作業、

車いす・福祉用具整備清掃、イベント準備、パソコン入
力等の作業

連携機関・団体

滋賀県地域若者サポートステーション、大津市社会福祉協議会、
滋賀県ひきこもり支援センター、大津市保健所、クローバー、
川辺のとまり木

・支援（サポート）機関による支援プラン会議の開催 月1回 計12回

・県社協での居場所づくり 「PCスポット！ポチポチいこか」の企画実施

⑥地域啓発・啓発資材の整備

滋賀県ひきこもり資源マップ 2025年8月更新版の発行をおこなった。

⑦ひきこもり・働きづらさ支援推進委員会の開催

県域でのひきこもり支援関係者による情報・意見交換の場である、ひきこもり・働きづらさ支
援推進委員会を2回開催した。

実施日・場所 令和7年7月4日（金） 県立長寿社会福祉センター

令和8年3月13日（金） 滋賀県介護・福祉人材センター

参画機関 長浜市社協、近江八幡市社協、守山市社協、

滋賀県社会就労事業振興センター、

滋賀県地域若者サポートステーション、八身福祉会、

甲賀・湖南ひきこもり支援『奏－かなで－』、虹の会、
県立精神保健福祉センター、県障害福祉課

(2) 民生委員児童委員等ひきこもり支援に関する研修会の開催

社会的孤立状態にある当事者や家族と関わる機会がある民生委員や高齢分野の支援機関等を対象に、理解を深め、地域で支えるための研修会を行った。

① 「ひきこもり支援のための研修会」

開催日 令和7年9月2日(火)

※午前の講座は県立精神保健福祉センター「県民講座」を兼ねる

会 場 草津市立市民交流プラザ 大会議室

参加者 72名

講 師 醍醐病院診療部 顧問 精神科医 河瀬 雅紀 氏

岡山県立大学 保健福祉学部 特任准教授 周防 美智子 氏

龍谷大学社会学部 特任教授 山口 浩次 氏

(3) 中高年障害者の居場所づくりの推進

知的障害のある人が身近な地域で休みの日に“ほっ”と過ごせる居場所づくりを、①高齢者施設を活用した居場所、②地域を拠点とした居場所(サロン等)を想定し、顔なじみのある地域づくりをすすめていくための企画検討を行ったが、実施に至らなかった。

(4) 生活困窮者自立支援事業従事者研修の実施

生活困窮者自立支援法に基づく自立支援事業等の実施に当たり、多様で複合的な課題を有する生活困窮者への包括的な支援が適切に行えるような専門性を習得するための研修を実施した。県内の自立相談支援機関の初任者向けの研修を1回(3時間)、初任者を含めたすべての相談員向けの研修を2回(2日間)にわたって実施。主任相談支援員、相談支援員および就労支援員として配置されている者等を対象に、生活困窮者自立支援制度の理念と基本姿勢、地域の情報を伝えるとともに、受講者同士の交流を図ることなどを目的とした。

<前期研修>

- ・初任者向けにソーシャルワーカーの基本的な支援姿勢について、県独自の半日(3時間)にわたる研修を開催した。

日 時：令和7年8月6日(水)、13:30~17:00

会 場：県立長寿社会福祉センター 第3・4研修室

内 容：

- ・行政説明(生活困窮者支援にかかる制度概要、県内状況など)
- ・説明(特例貸付フォローアップ事業について)

(説明者) 滋賀県社会福祉協議会 特例貸付相談支援室 室長 加藤 芳顕

- ・講義「支援員に求められるソーシャルワークの基礎

～『一人』を大切にする支援と『一人』が大切にされる地域づくり
のためのソーシャルワーク～

(研修講師) 同志社大学 社会福祉学部 教授 空閑 浩人氏

- ・参加者同士でのグループトーク

参加者：25 名

<後期研修>

- ・2日間にわたり、集合形式で合計 10.5 時間以上の研修を開催した。

【1日目】

日 時：令和8年1月28日（水）10:00～16:30

会 場：県立長寿社会福祉センター 第3・4研修室

内 容：

- ・行政説明（制度の概要と県内の状況について）
- ・報告「コロナ特例貸付利用者支援の現状と今後の予定」
（報告者）滋賀県社会福祉協議会 特例貸付相談支援室 室長 加藤 芳顕
- ・講義「支援員に必要なソーシャルワークの基本～『つながり続ける』ことを支える支援と『孤立しない・させない地域づくり』の展開～」
（研修講師）同志社大学 社会福祉学部 教授 空閑 浩人氏
- ・参加者同士でのグループトーク
参加者：24 名

【2日目】

日 時：令和8年2月3日（火）10:00～16:30

会 場：県立長寿社会福祉センター 第3・4研修室

内 容：

- ・実践報告「自立相談支援・家計改善支援～支援員1人で悩まない！
支援者間ネットワークとチーム支援を考える～」
（報告者）彦根市福祉保健部社会福祉課 自立支援係 係長 小川 祐輝 氏
 - ・実践報告「高島市の就労支援・社会参加支援の実践とネットワークについて/
高島市の就労準備支援事業について」
（報告者）高島市健康福祉部社会福祉課 暮らし連携支援室 室長 清水 潤平 氏
社会福祉法人虹の会 ふれホップ アウトリーチ支援員 杉本 学士 氏
 - ・実践報告「子ども支援の実践とネットワークについて」
（報告者）滋賀県教育委員会幼小中教育課
スクールソーシャルワークスーパーバイザー 上村 文子 氏
 - ・グループトーク・ワールドカフェ～実践報告について深めよう～
 - ・グループワーク～グループメンバーでネットワークをつくろう～
（コーディネーター）龍谷大学 社会学部 現代福祉学科特任教授 山口 浩次 氏
- 参加者：25 名

(5) 生活支援コーディネーター研修の実施

<滋賀県生活支援コーディネーター基礎研修>

日 時：令和7年12月12日（金）10:00～16:00

会 場：滋賀県立文化産業交流会館 第1会議室（米原市下多良二丁目137）

内 容：【説明】「生活支援体制整備事業と取組状況について」

滋賀県健康医療福祉部 医療福祉推進課（説明：県社協）

【講義】「生活支援コーディネーターの役割と地域における支え合い活動」

（研修講師）関西学院大学人間学部 准教授 柴田 学氏

【実践報告】

① 「おっちゃんのおむすび商店のストーリー」

（報告者）社会福祉法人絆敬会 理事長 田中 俊之氏

② 「地域が元気になる移動販売の取組」

（報告者）社会福祉法人長浜市社会福祉協議会 専門監 山岡 伸次氏

※参加者のグループトーク+質疑含む

参加者：33名

<フォローアップ事業>

【第1回】生活支援コーディネーター情報交換会

日 時：令和7年8月21日（木）10:00～15:00

場 所：県立長寿社会福祉センター 第3・4研修室

（草津市笠山七丁目8-138）

内 容：【実践報告】『「市民活動団体みんなでe-こうか」に学ぶ、まちのつながり
方とその見せ方」

（報告者）「市民活動団体みんなでe-こうか」

世話人 大谷 喜久 氏

（甲賀市社会福祉協議会地域福祉課長）

竜王 真紀 氏

（甲賀市健康福祉部地域共生社会推進課長）

（滋賀県生活支援体制整備事業推進会議委員）

【情報交換】

ワールドカフェ方式

① テーマ：協議体

カフェ名：「創造的で感覚的な場」

② テーマ：居場所、サロン

カフェ名：「対話が一番！ごちゃまぜサロン」

③ テーマ：見守り活動

カフェ名：「ふくしは見守りが9割」

④ テーマ：成果の見せ方

カフェ名：「café ミルフィーユ」

参加者：22名

【第2回】生活支援コーディネーター情報交換会

日 時：令和8年3月3日（火）13:30～16:30

場 所：草津市市民交流プラザ 大会議室（フェリエ南草津5階）

（草津市野路一丁目15-5）

内 容：[コーディネーター]関西学院大学人間福祉学部 准教授 柴田 学 氏

【実践報告】

① 「五個荘地区住民福祉会議（第二層協議体）の活動から」

（報告者）五個荘地区住民福祉会議事務局

地域支え合い推進員 奥村 昭 氏
(社会福祉法人六心会 地域支援担当)
(滋賀県生活支援体制整備事業推進会議委員)

- ② 「『柿&薪泥棒プロジェクト』の取組」
(報告者) 一般社団法人甲賀ナイスローカルカンパニー
理事 西島 孝 氏
(甲賀市健康福祉部地域共生社会推進課)

【情報交換】

ワールドカフェ方式

- ①テーマ：協議体 カフェ名：「協議体を語る Cafe」
- ②テーマ：場と機会づくり カフェ名：「つづく・つながる場と機会を話す Cafe」
- ③テーマ：多様な参加ルートづくり カフェ名：「地域×私×〇〇 Cafe」

参加者：22 名

<滋賀県生活支援体制整備事業推進会議>

【第1回】

日 時：令和7年7月11日（金）10:00～12:00
会 場：県立長寿社会福祉センター 福祉用具センターミーティングルーム
内 容：令和6年度事業の報告、令和7年度事業の方向性について、基礎研修および情報交換会について企画検討 他

【第2回】

日 時：令和7年9月18日（木）14:00～16:00
会 場：社会福祉法人しみんふくし滋賀本部事務局(野間清六邸)
内 容：令和7年度事業状況調査結果、第1回情報交換会のふり返し、基礎研修および第2回情報交換会の企画検討 他

【第3回】

日 時：令和8年3月10日（火）15:00～17:00
会 場：県立長寿社会福祉センター 介護実習室
内 容：令和7年度事業の振り返り、令和8年度事業の方向性について 他

6. 滋賀県ボランティアセンターの運営

(1) 淡海フィランソロピーネットとの協働事業の推進

①企業・団体の社会貢献活動トップセミナーの開催

日 時：令和7年11月12日(水)

会 場：琵琶湖ホテル 瑠璃

参加者：70 名

テーマ「能登半島地震の教訓を踏まえた災害法制改正と、
これからの災害に対応するための企業の役割を考える～」
講演 「能登半島地震とその後の変化から考える災害対応

—企業・団体への期待—

講師 大阪公立大学 大学院文学研究科 人間行動学専攻
文学部 人間行動学科 准教授 菅野 拓 氏

被災地からの報告

「～まちで唯一のスーパーが支えた地域のくらしと
支えとなったネットワーク」

報告者 有限会社もとや庄治商店（石川県輪島市）
代表取締役 本谷 一知 氏

②淡海フィランソロピーネット 30 周年記念フォーラム

日 時：令和8年3月23日（月）

会 場：琵琶湖ホテル 瑠璃

内 容

・特別講演

テーマ 「阪神・淡路大震災から 30 年 ～ボランティア元年から災害支援の変遷と、
いま私たちのすべきこと」

講 師 認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード/
認定特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク
代表理事 栗田 暢之 氏

・報 告

テーマ 「滋賀県災害福祉支援センターについて」

報告者 滋賀県社会福祉協議会 会長 市川 忠稔

・スペシャルコラボトーク

テーマ 「これまでの災害支援の課題を踏まえて、災害時に県民の命と暮らしを守るた
めに企業・行政・社協が果たすべき役割」

登壇者 滋賀県健康医療福祉部 部長 山田 忠利 氏
淡海フィランソロピーネット 運営委員長 高橋 祥二郎 氏
滋賀県社会福祉協議会 会長 市川 忠稔

コメンター 認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード/
認定特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク
代表理事 栗田 暢之 氏

コーディネーター 特定非営利活動法人 NPO 政策研究所 専務理事 相川 康子 氏

参加者：88 名

7. 子どもを真ん中においた地域ネットワークづくり

（1）子どもの笑顔はぐくみプロジェクト

①子どもの笑顔のスポンサーと子ども食堂等とのマッチング

- ・市町社協との連携によるスポンサー活動の効果的なコーディネートへの検討
- ・スポンサーへの丁寧な報告による、サポート活動の促進

令和7年度新規スポンサー：18 件（団体 6 件、個人 12 件）

合計：633 件（団体 460 件、個人 173 件）

- ・ はぐくみ基金への寄付収納（物品等金額換算分を含む） 37,528,253 円
- ・ ホームページ、Facebook、Instagram を活用した情報配信、広報誌の発行
 - 「はぐプロ通信 vol. 8」（令和 7 年 5 月発行）
 - 「はぐプロ通信 vol. 9」（令和 8 年 2 月発行）
 - 「子ども食堂だより vol. 17」（令和 7 年 6 月発行）
- ・ スポンサーからのサポート(提供)に係るマッチング
 - バローグループによる県内店舗でのフードドライブとのマッチング
 - 高島市内店舗 1 件
- ・ フードパントリーの開催 延べ参加団体数 590 団体

【定例パントリー（隔月）】

- 第 1 回（令和 7 年 4 月 1 日～令和 7 年 5 月 30 日） 参加数 97 団体
- 第 2 回（令和 7 年 6 月 2 日～令和 7 年 7 月 31 日） 参加数 107 団体
- 第 3 回（令和 7 年 8 月 18 日～令和 7 年 9 月 30 日） 参加数 96 団体
- 第 4 回（令和 7 年 10 月 6 日～令和 7 年 11 月 25 日） 参加数 87 団体
- 第 5 回（令和 7 年 12 月 1 日～令和 8 年 1 月 23 日） 参加数 92 団体
- 第 6 回（令和 8 年 2 月 2 日～令和 8 年 3 月 27 日） 参加数 93 団体

【出張型パントリー】

- 令和 7 年 4 月 23 日（竜王町） 参加数 5 団体
- 令和 7 年 9 月 3 日（東近江市） 参加数 9 団体
- 令和 7 年 10 月 31 日（米原市） 参加数 4 団体

②みんな集まれ！遊べる・学べる淡海子ども食堂フェスタの開催

【北部開催】（COZY TOWN）

開催日：令和 7 年 8 月 30 日（土）11：00～14：30

参加者：368 名（うち一般参加者 274 名）

内 容：子ども食堂体験コーナー、遊びコーナー、縁日コーナー、展示等

【南部開催】（県立長寿社会福祉センター）

開催日：令和 7 年 11 月 29 日（土）11：00～14：30

参加者：793 名（うち一般参加者 574 名）

内 容：子ども食堂コーナー、ステージコーナー、遊び、展示、人形劇等

③各種広報誌の発行および WEB 媒体（HP/SNS）の活用による情報発信

④困難世帯の子どもの居場所に関する調査研究、社会資源の可視化

- ・ 困難世帯の子どもの居場所に関する課題と今後の在り方についての調査研究
- 県社協が推進するフリースペース事業の意義や課題を明らかにし、今後の事業展開につなげた。

調査時期：令和7年9月～令和7年11月

調査対象：フリースペース実施主体、世帯や子どもと関わるワーカー、フリースペースを利用している子ども・卒業した若者、保護者、市町社協

- ・滋賀県内における困難世帯の子どもの居場所（社会資源）の可視化
- ・滋賀県発行のリーフレット「滋賀の多様な居場所・学びの場」との連携

8. 身近で温かいつながりの場“地域食堂”としての子ども食堂活動の進化

（1）子ども食堂アドバンスプロジェクトによる市町社協との協働推進

①市町社協や子ども食堂関係者等の情報交換の場づくり

【第1回】令和7年7月18日（社協フォーラム）

内容：「地域づくり」と「居場所のチカラ」を考える協働実践研修会

【第2回】令和7年9月11日（北部交流会と同日開催）

内容：子ども食堂の関係者、市町社協の子ども食堂担当者等が交流し、顔の見える関係を築く

【第3回】令和7年10月16日（南部交流会と同日開催）

内容：子ども食堂の関係者、市町社協の子ども食堂担当者等が交流し、顔の見える関係を築く

【第4回】令和8年3月4日

内容：各社協における子ども食堂支援の現状と課題の共有と意見交換

②子ども食堂に来ている子どもの声を聴くワークショップの開催（年1回）

開催日：令和8年3月4日（アドバンスプロジェクトと同日開催）

内 容：子ども食堂に来ている子どもたちの声の調査結果報告

③子どもの声を反映した地域での子ども食堂の普及

【アンケート調査】

調査時期：令和7年9月～令和7年12月

調査対象：子ども食堂つながりネットワーク SHIGA に加入している子ども食堂に来ている子どもたち（子ども食堂219団体に依頼）

子ども回答件数：989件

【インタビュー調査】

調査時期：令和7年10月～令和7年12月

調査対象：子ども食堂つながりネットワーク SHIGA に加入している子ども食堂に来ている小学2年生～中学生（4団体を訪問）

インタビュー人数：16名

（2）地域における子ども食堂ネットワークの推進

各市町における子ども食堂ネットワークづくり支援

- ・各市町単位での子ども食堂ネットワーク会議への出席と県域での子ども食堂支援の現状説明

(9市1町)

- ①日野町 令和7年4月16日
- ②野洲市 令和7年6月26日、令和7年12月18日、令和8年3月19日
- ③高島市 令和7年7月1日、令和7年12月2日
- ④甲賀市 令和7年8月18日、令和7年10月20日、令和8年2月16日
- ⑤大津市 令和7年9月3日
- ⑥草津市 令和7年10月14日、令和8年2月2日
- ⑦米原市 令和7年10月31日
- ⑧栗東市 令和8年2月6日
- ⑨守山市 令和8年2月13日
- ⑩近江八幡市 令和8年3月3日

(3) 子ども食堂実施団体への運営支援

①子ども食堂つながりネットワーク SHIGA の運営と研修・交流会の実施

【研修会】

第1回：子ども食堂の運営に活かす助成金の申請講座

開催日：令和7年8月5日

参加者：14名（11団体）、行政職員1名

講師：滋賀県社会福祉協議会職員

第2回：子ども食堂運営に活用できるIT研修会～初級編～

開催日：令和7年12月11日

参加者：7名（6団体）、行政職員1名

補助：5名（おうみデジタル活用サポーター）

講師：子ども食堂ポレポレ 大黒 優子 氏

第3回：子ども食堂に来ている子どもたちの声から考える子どもとの関わり方
研修会

開催日：令和8年3月4日

参加者：22名（12団体、うち2団体5名は市社協職員）

講師：社会福祉法人小嶋会 こばと子ども家庭サポートセンター
中西 望鈴 氏

【交流会】

北部開催：令和7年9月11日（会場：COZY TOWN）

参加者：7名（5団体）

南部開催：令和7年10月16日（会場：県立長寿社会福祉センター）

参加者：16名（10団体）、行政職員1名

②子ども食堂の立ち上げ及び活動継続支援

・新規立ち上げ子ども食堂（ネットワーク加入数）35か所

（令和7年度末現在の子どもの食堂か所数（ネットワーク加入数）262か所）

・開設支援助成 24 食堂 (1 団体あたり 100 千円、総計 2400 千円を助成)

・保険料助成による安心安全な場づくりの推進

ボランティア行事用保険 助成団体数：74 件 合計 1,089,714 円

ボランティア活動保険 助成団体数：38 件 合計 127,250 円

・学びサポート事業による活動助成

助成件数 20 件 (27 食堂) 合計 262,478 円

③滋賀の子ども・若者のほほえむ力サポート事業うれしいことプラス1助成

・物価高騰のなかで子どもを真ん中においた活動に取り組む子ども食堂等を支援

助成要件：令和7年4月1日から令和8年3月8日に「うれしい・たのしい体験」を子ども食堂において提供すること。1 団体あたり、年間上限 120 千円 (1 回あたり 10 千円、12 回分までが対象)

助成実績：団体数 147 団体 (子ども食堂 136 団体、フリースペース 11 団体)

助成金額合計 14,840,000 円

9. 地域養護の推進

(1) 相互交流の場の提供

つながり若者センターマザーボード (以下、「MB」) およびコージータウン (以下、「CT」) において、社会的養護経験者等の生きづらさを抱えた若者 (以下、「対象者」) を対象に、“食”を中心に安心して集まれる場所として居場所活動を以下のとおり実施した。相談窓口に足が向きにくい・困り感に乏しいといった対象者との信頼関係の醸成、語られにくい問題の早期発見や相談支援にもつながった。

①拠点型居場所活動

・つな若ダイニング [毎月第2金曜 18-20 時 : MB にて : 一緒に食事を囲む]

・夜のつなわか COZY 食堂 [毎月第1金曜 18-20 時 : CT にて : 一緒に食事を囲む]

・交流サロン & COZY 食堂 [毎月第2火曜 10-14 時 : CT にて : 食事・ボードゲーム・談話等]

・おさんぽ会 & COZY 食堂 [毎月第3火曜 10-12 時 : CT・近隣にて : 散歩や軽運動・談話等]

②アウトリーチ型居場所活動

・つな若キッチン [原則毎月第3土曜 10-15 時 : 対象者の居住地近隣の公民館等にて]

[献立決め・買い物・調理・食事・後片付けまでの一連を一緒に行う出張型の居場所]

③実施回数と参加人数

MB : 24 回実施 / 若者実人数 43 名 / 支援者実人数 33 人 (内、つながり若者センター 6 人)

CT : 36 回実施 / 若者実人数 15 名 / 支援者実人数 6 人 (内、つながり若者センター 5 人)

合計 : 60 回実施 / 若者実人数 58 名 / 支援者実人数 34 人

	実施 回数 (回)	若者 実人数 (名)	若者 延 べ 人 数 (名)	支援者 実人数 (名)	支援者 延 べ 人 数 (名)	計 実人数 (名)	計 延 べ 人 数 (名)
つな若キッチン	12	27	31	22	57	47	88
つな若ダイニング	12	19	79	14	59	33	138
夜のつながり COZY 食堂	12	13	88	4	36	17	124
交流サロン&COZY 食堂	12	9	55	4	32	13	87
おさんぽ会	12	10	25	4	33	14	58

(2) 支援計画の策定

- ①つながり若者センターにて継続的に支援を行っている対象者について、「つながり応援計画シート」の作成、見直しを行った。
- ②措置及び措置解除年次にある児童のうち、各施設の自立支援担当職員(以下、「自立支援員」と協働して継続的な支援を実施する必要があると思われる対象者について、継続支援計画の作成は行っていないが、支援に必要な情報共有等を行い、必要に応じてケース会議の実施や参加などにより退所後の支援の検討を行った。〔対象者7人 (MB4人+CT3人)〕
- ③ケース進捗会議において、ケースの支援状況や終結の状況について共有、確認を行った。
 - ・令和7年7月16日 [出席者：滋賀県子ども家庭支援課、つながり若者センター]
 - ・令和7年10月15日 [出席者：滋賀県子ども家庭支援課、つながり若者センター]
 - ・令和8年1月21日 [出席者：滋賀県子ども家庭支援課、つながり若者センター]

(3) 相談支援

つながり若者センターに統括コーディネーターおよび相談支援コーディネーターを配置し、相談者への相談支援に応じた。相談支援は、来所または、対象者の自宅やその近隣等へ訪問して行い、必要に応じて医療受診やハローワーク等への同行を行った。

日々の連絡や相談にあたっては、LINEの活用も積極的に行った。また、支援機関等との連携、および個別支援会議の開催やその他ケース会議等へ参画し、支援方針や役割分担を確認しながら対象者の支援にあたった。

また、措置解除者等に加えて本事業の対象者とされる虐待経験がありながらもこれまで公的支援につながらなかった者等への支援については、滋賀県内各市町の子ども・若者支援の担当者等と意見交換の機会を設けるなどし、その支援体制の構築に向けて具体的な相談を行った。

なお、相談支援の記録やデータ管理にあたっては、12月よりキントーンを導入した。

①相談・支援の実人数

- ・受理ケース総数 234人(令和3年度-令和7年度)
- ・係属ケース 133人 (令和8年3月31日時点)：「つながり応援計画シート」を作成
 [内訳：社会的養護経験者 98人/それ以外(実家庭等) 35人]
 [内訳：今年度新規受理ケース 34人(うち1人は再受理)/昨年度からの継続ケース 99人]

- ・令和7年度終結ケースについて 27人

②相談のべ件数 3,884件

- ・[相談実人数 180人] MB: 142人 / CT: 49人 (11人は重複して相談)
- ・[内容別相談件数(のべ)] ※相談内容別・方法別・ケース会議の月別件数は別表を参照
生活相談 2,896件 / 就労相談 901件 / 医療関連相談 67件 / 法律相談 20件
- ・[相談内容:【生活相談のべ 2,896件】の内訳] MB: のべ 2,051件 / CT: のべ 845件
近況報告 1,450件/健康 641件/人間関係 394件/家族関係 413件/生活困窮 245件/金銭管理 442件/住居 494件/自己理解 159件/生い立ち 111件/情緒不安定 83件/ 生活技術 185件/権利擁護 17件/学校生活 151件/居場所 572件/制度利用 398件/ 朗報 71件/その他 677件
- ・[相談内容:【就労相談のべ 901件】の内訳] MB: のべ 624件 / CT: のべ 277件
近況報告 589件/求職 289件/転職 135件/定着支援 117件/朗報 37件/休職 11件/離職 52件/
欠勤・出勤の状況 65件/仕事内容 153件/給料・待遇 103件/労働環境 191件/ハラスメント 16件/諸手続き 32件/その他 82件
- ・[方法別相談件数]
電話 683件/メール 110件/同行支援 53件/訪問 200件/来所 204件
[ケース会議 82件] MB: のべ 53件 / CT: のべ 29件
主催(個別支援会議) : 本人同席あり 9件 / なし 9件
参加(各種ケース会議) : 本人同席あり 34件 / なし 72件

③就労支援の状況

企業団体の委員会活動への参加など、働きづらさを抱える方の雇用について前向きな滋賀県下の企業等とのつながりづくりに取り組んでいる。

④県外ケース 10人(令和8年3月31日現在)

⑤交流事業

インケア中の児童・退所予定の児童との顔合わせ、退所後のつながりづくりを目指し、各施設行事等へつながり若者センター職員が参画した。また各施設へ、つながり若者センターが繋がるとよいと思われる退所予定児の状況等について、確認、相談を行った。

(4) 一時避難的かつ短期間の居場所の提供事業

- ・県内自立援助ホームとの再委託契約を締結

[県内5法人:自立援助ホーム8箇所]

- ・実施 3件

他制度のシェルター等の利用が難しい場合に利用を決定し、3件について提供を実施した。

(5) 地域養護を目的とする事業の企画および実施(地域養護推進協議会 自主事業)

①誕生日お祝い事業

誕生日を祝う取り組みとして、アイスクリームチケットとメッセージカードを手交、郵送した。

実施 50 人[MB : 38 人/CT : 12 人] (令和8年3月31日時点)

②つな若れすきゅー事業の実施

現在困窮するが家族等に頼ることが困難な若者に対し、冷蔵庫等の電化製品や当面の食糧等の生活必需品を現物支給にて提供することにより、当面の生活の安定を図ることを目的に実施した。(1人 20,000 円程度を上限) 実施 : 1 人

10. 滋賀県地域養護推進実態把握事業

(1) 滋賀県地域養護推進協議会の運営

①幹事会の開催

- ・第1回 : 令和7年5月19日
- ・第2回 : 令和7年11月4日
- ・第3回 : 令和7年3月11日

②全体会・研修会の開催

・全体会の開催

日時 : 令和7年7月1日 13 : 30-14 : 15

場所 : 県立長寿社会福祉センター

・研修会「若者支援における居場所の意義について考える研修会」

日時 : 令和年7月1日 14 : 30-16 : 00

場所 : 県立長寿社会福祉センター

講師 : 滋賀県立大学 人間文化学部 原未来准教授 「若者支援における居場所の意義」

参加者 : 68 名

③協議会への新規参画団体

- ・株式会社じどう
- ・一般社団法人青少年自立援助協会

(令和8年3月31日現在、参画団体総数41団体)

④広報

滋賀県における地域養護の推進に向けて、以下のような広報活動を実施した。

- ・「つなわか通信」を発行し、本協議会会員等へ配布 [年2回]12号(9月)・13号(2月)
- ・若者向けカードを作成
- ・SNS(インスタグラム・エックス)において情報発信
- ・つながり若者センターのロゴ作成

(2) 実態把握事業

①合同会議の実施状況

滋賀県内各施設の自立支援コーディネーター等が集まる合同会議を2か月に1回程度開催した。相談・支援の積み重ねによって浮き彫りになった若者が抱える課題や、支援における課題等について

て共有・検討した。

②社会資源のデータベース化に向けた取組

合同会議参加者よりワーキンググループとして活動するメンバーを募り情報の集約を行った。令和8年度も引き続き取り組みを進めていく。

③社会的養護自立支援実態把握調査

・支援者向けアンケート・インタビュー調査

支援者向けアンケート調査は、全施設からの回答を受け取り、結果報告としてまとめた。また、支援者インタビューでは、これまでの実践や支援する中で課題に感じていることなどを聴き取り、結果報告としてまとめた。

[対象]

県内の児童養護施設4か所、児童心理治療施設1か所、児童自立支援施設1か所自立援助ホーム8か所

[アンケート内容]

- ・入所中に実施している自立支援に関する質問
- ・退所後に実施している自立に向けた支援に関する質問
- ・自立支援に関する全般的な質問（意見・希望など）

[インタビューで聞かれた主な意見（一部抜粋）]

- ・他府県で実施されているような退所児童向けの自立支援にかかる「テーマごとのスキルトレーニング」の連続セミナーの滋賀版があるとよいのではないか。
- ・権利ノートのように、全施設共通で使える退所時に渡す冊子のようなものがあればよいのではないか。もしくは、Web上に、困った時にアクセスできるサイトを作ってはどうか。（他府県での実践例あり。）
- ・他施設でどのような取組みがされているのか知らないことも多い。合同会議では、ファミリーホームや自立援助ホームの職員も参加しているが、施設の自立支援担当者とはアフターの関わり方が異なってくるので、施設職員だけで集まる場合もあると、良い実践を共有しやすい。
- ・自立支援担当者の職務への理解が得られにくい場面もあり、立ち位置が難しい。

・若者向けアンケート

つながり若者センターおよび各施設の担当者がLINEでつながっている若者と、退所児童貸付のLINEでつながっている社会的養護経験者等の若者へ、Webによるアンケート調査を実施し、結果をとりまとめた。協力者に対しては、デジタルギフト（1,000円分）を送付した。

・回答者 105名

・アンケート内容

- ・健康に関する質問
- ・自己認識・幸福の実感に関する質問
- ・居場所に関する質問
- ・孤独感（人とのつながり）に関する質問
- ・将来に対しての希望・社会参加への意欲に関する質問

- ・ 支援に関する質問
- ・ 現在の不安・心配に関する質問
- ・ 基本属性に関する質問
- ・ （社会的養護経験者のみへ）

ハローわくわく仕事体験参加有無、入所中に受けた支援、退所時に不安等

・若者座談会

令和8年1月24日にコージータウンにて若者座談会を開催し、アンケート調査の結果をもとに、退所前にあったらよかったと感じている支援等について聞き取りを行い、結果をとりまとめた。

[対象]

社会的養護経験者等5名（内、1名は個別インタビュー形式での聞き取りを実施）

[内容]

- ・ 退所前にあればよかったと思っている支援
- ・ 退所後にあればよいなと思っている支援
- ・ 後輩に対して伝えたいメッセージ

11. ハローわくわく仕事体験事業の推進

（1）ハローわくわく体験事業の推進

①社会的養護の子どもたちの自立に向けた土台づくり

- ・ 仕事体験やセミナーの機会の提供

【仕事体験】（中高生） 計：延べ18名、体験13企業

ア. 夏休み 参加者8名、企業8社

イ. 冬休み 参加者3名、企業2社

ウ. 春休み 参加者7名、企業6社

【工場・職場見学】（小学生） 計：延べ15名、体験11企業

ア. 夏休み 参加者12名、企業9社

イ. 冬休み 参加者0名、企業0社

ウ. 春休み 参加者3名、企業2社

【キャリアアップセミナー】

子どもたちが自身の将来について具体的に考えるきっかけとするため、小中学生対象のセミナーと中高生対象のセミナーを開催した。

ア. 第1回キャリアアップセミナー（小中学生対象）

開催日：令和7年5月31日（土）

会 場：県立長寿社会福祉センター

内 容：《すきなもののビンゴ&お仕事マップ》

～夢！自分！発見！！ 自分を知り、社会を知り、自立する～

講 師：くさつ未来プロジェクト 宇津木 由香 氏 、 浜本 博志 氏
他ナビゲーター

参加者：児童 51 名、職員等 39 名 （計 90 名）

イ. 第2回キャリアアップセミナー（中高生対象）

開催日：令和7年11月22日（土）

会 場：県立長寿社会福祉センター

内 容：ハロわく協力企業等の社会人を招き、「社会人としての心構え」「ひとり暮らしの実
際」をテーマにした講和、座談会、交流会を実施

登壇者：ハロわく協力企業の社会人等

参加者：児童 29 名、職員等 26 名 （計 55 名）

【プレキャリアアップセミナー】

就労体験ならびにセミナーへの参加児童を増やすために、生活を共にする大人（施設職員、里
親）に向けた研修を開催し、子どもたちへの声掛けや提案を促進できるよう実施した。

開催日：令和7年10月2日（木）

会 場：キラリエ草津

内 容：子どもの意見や考えを表明できるようにサポートする「子どもアドボカシー」につい
て、「デザイン国語」の理論を学び演習を通して実践につなげる。

講 師：大阪公立大学 教授 伊藤 嘉余子 氏

参加者：児童養護施設職員等 35 名

【プロフェッショナルセミナー】

各児童養護施設等を会場とした出張型セミナー

ア. 小嶋の家 開催日：令和8年1月31日（土）

参加企業：4社6名

参加者数：児童 11 名、職員等 12 名

イ. 湘南学園 開催日：令和7年6月29日（日）

参加企業：4社9名

参加者数：児童 8 名、職員等 14 名

ウ. 守山学園 開催日：令和7年11月15日（土）

参加企業：4社13名

参加者数：児童 13 名、職員等 8 名

エ. 鹿深の家 開催日：令和8年2月23日（月）

参加企業：3社7名

参加者数：児童 8 名、職員等 7 名

オ. さざなみ学園 開催日：令和8年3月27日（金）

参加企業：1社3名

参加者数：児童 5 名、職員等 2 名

【しがの子ども仕事体験PARK】(小中学生対象)

開催日：令和7年7月31日(木)

会場：県立長寿社会福祉センター

参加企業：13社35名

参加者数：児童93名(小学生53名、中学生40名)、高校生ボランティア6名
引率職員45名、推進委員11名

②子どもの自立を応援する機運の醸成

- ・施設との協働による子どもの声を聴くインタビュー実施

調査目的：ハローわくわく体験事業ならびに今後の自立支援のあり方の検討

調査時期：令和7年4月～6月

調査対象：滋賀県内児童養護施設・児童心理治療施設で生活する児童計10名

(各施設から、ハローわくわく仕事体験に参加に参加したことがある児童と参加したことがない児童をそれぞれ2名程度を選定)

③協力企業の拡大および情報発信の強化

- ・SNSを活用した情報発信および協力企業情報サイト開設に向けた情報整理
- ・協力企業・事業所数計190企業・事業所
(令和7年度新規開拓数：16企業・事業所)

12. 地域における要支援児童等の居場所“フリースペース”の推進

(1) 社会福祉施設やNPO等と連携し各市町の実情にあったフリースペースの拡充

- ・フリースペース箇所数：22か所(新規開設2か所、再開1か所)
- ・意向アンケートの実施と訪問によるヒアリング

実施時期：令和8年1月

送付先：県内の福祉事業所約1,200か所

訪問先数：52か所

- ・推進委員会による検討

第1回：令和7年5月19日

(内容) 令和7年度フリースペース推進事業の方針・計画について
フリースペース実施団体対象の勉強会・交流会の方向性

第2回：令和7年8月6日

(内容) フリースペース推進事業研修会プログラムについて
動画ツール等について

第3回：令和8年3月2日

(内容) フリースペース推進事業進捗状況ならびに次年度の方向性
動画ツール等について

(2) 地域におけるフリースペースのネットワーク構築支援

【研修会の開催】

開催日：令和7年12月15日

内 容：・話題提供

社会福祉法人の「地域における公益的な取組」について

滋賀県健康福祉政策課 指導監査係 嘉田 登世子 氏

フリースペース推進事業調査研究結果報告

滋賀県社会福祉協議会地域福祉課 栗野 友美佳

・実践報告

特別養護老人ホームふじの里なごみの家

スーパーバイザー・生活相談員 島本 浩恵 氏

フリースペースひこねふるさと

障害者支援施設ふるさと 施設長 森田 由美 氏

参加者：計35名（フリースペース実施団体14名、企業・社会福祉法人・NPO法人16名、市社協1名、SSWI名、県社協3名）

【交流会の開催】

開催日：令和7年8月7日

対 象：現在フリースペースを実施している団体、団体のある市町・市町社協、フリースペース実施に関心のある団体・市町・市町社協

内 容：各フリースペースの状況紹介・実践報告、意見交換

参加者：計22名（8団体14名、行政・社協8名）

(3) フリースペース実施団体への運営支援

・フリースペース運営にかかる必要経費の助成（1団体あたり年額12万円）

助成団体数：16か所 助成金額合計1,882,620円

(4) 困難世帯のこどもの居場所に関する調査研究（再掲）

調査時期：令和7年9月～令和7年11月

調査対象：フリースペース実施主体、世帯や子どもと関わるワーカー、フリースペースを利用している子ども・卒業した若者、保護者、市町社協

滋賀県権利擁護センター

県域の権利擁護センターの役割を見直し、県域における総合的な権利擁護支援の取り組みの充実に向けて、市町社協、中核機関等関係団体との連携を強化し、地域福祉権利擁護事業のさらなる推進と権利擁護支援にかかる幅広い人材の育成を推進するための取り組みを行った。

1. 地域福祉権利擁護事業の推進及び市町社協支援

①専門員会議の実施

【1回目】

開催日 令和7年7月9日（水）13：30～16：00

場 所 東近江市社会福祉協議会 多目的室

内 容

- ・ 全社協日常生活自立支援事業担当部課長会議の報告
 - ・ 滋賀県権利擁護センターのR7年度事業について
 - ・ 地域福祉権利擁護事業における金銭管理支援の課題について
 - ・ 金銭管理支援のDX化について
- 情報提供：KAERU株式会社 佐々木 仁美氏（オンライン）
- ・ 意見交換「日々の業務推進における課題について」

【2回目】

開催日 令和7年12月5日（金）13:30～16：00

場 所 湖南市社会福祉協議会 1階 活動室

内 容

- ・ 勉強会「地域福祉権利擁護事業における死後事務や身寄りのない人の支援について」
講師：土井法律事務所 弁護士 堀田 直美 氏
- ・ 「新たな事業」の動向等について
- ・ 情報交換

②専門員、生活支援員研修の実施

- ・ 生活支援員/新任職員研修会の開催

生活支援員や新しく専門員となった職員を対象に、実務を進める上で必要となる基本的な知識の習得や相談のきき方、アセスメント等を学ぶための研修を開催した。

【1日目】参加者 23名

開催日 令和7年 6月16日（月）10：00～16：30

場 所 COZY TOWN A ルーム

内 容 講義①「地域福祉権利擁護事業の成り立ちと取り組み状況について」

講義②「地域福祉権利擁護事業における意思決定支援について」

講義③「知的障害者の理解と意思決定支援について」

★交流会★つながりをつくろう！

【2日目】参加者 25名

開催日 令和7年 6月27日（金）13：15～16：30

場 所 草津市市民交流プラザ 中会議室

内 容 講義④「精神障害者の理解と意思決定支援について」

講義⑤「認知症高齢者の理解と意思決定支援について」

・新任職員等向けフォローアップ研修会の開催 参加者 21 名

開催日 令和7年12月23日(火) 13:30~16:00

場 所 県立長寿社会福祉センター 第3・4研修室

内 容 講義・事例検討・情報交換

「ジレンマを大切にした支援～地域福祉権利擁護事業の事例検討を通して～」

講師 龍谷大学社会学部 教授 山田 容 氏

③契約締結審査会の実施（市町社協からの申請に基づき随時実施）

【第1回】

開催日 令和7年5月22日(木) 10:00~12:00

場 所 県立長寿社会福祉センター

【第2回】

開催日 令和8年2月9日(月) 13:30~15:30

場 所 県立長寿社会福祉センター

④市町社協の個別支援

各市町社協の個別ケースへの相談を受け付け、専門職団体等とも連携しながら助言を行った(65件)。また、運営適正化委員会による運営監視に同行し、個別フォローおよび助言内容等の全体共有を行った。

上半期…長浜市社協（長浜センター、木之本センター）、草津市社協、高島市社協、豊郷町社協

下半期…野洲市社協、湖南市社協、東近江市社協、米原市社協、甲良町社協

2. 権利擁護支援・成年後見制度に関するネットワークづくり

①中核機関ネットワーク会議の開催

県内の中核機関および中核機関未設置市町担当者が集い、中核機関の取組状況や課題等について意見交換を行い、県の協議会との連携を図った。

【第1回】

開催日 令和7年5月16日(金) 13:30~15:30

場 所 県立長寿社会福祉センター 第2研修室

【第2回】

開催日 令和8年1月19日(月) 13:30~15:30

場 所 滋賀県大津合同庁舎6-A会議室

②専門職団体受任件数等調査の実施

専門職団体受任件数等調査を実施し、県内における専門職による受任および法人後見の実態について把握し、成年後見制度利用促進協議会において報告した。

③法人後見受任団体養成研修

開催日 令和8年2月27日（金） 13：30～16：00

場 所 草津市立市民交流プラザ 中会議室

参加者 20 名

内容・講師

- ・ 県内における成年後見制度の状況について（滋賀県障害福祉課）
- ・ 法人後見選任の考慮要素等について（秦 麻未氏 大津家庭裁判所 後見・財産管理係）
- ・ 法人後見に取り組む法人による報告

<実践報告>

- ・ 地域福祉事業として取り組む法人後見～大切な人生を、守る力に～

社会福祉法人八尾隣保館 在宅統括マネージャー 久保田 佳宏 氏

- ・ 社会福祉協議会が取り組む法人後見の実際～法人後見の強み～

社会福祉法人高島市社会福祉協議会 相談支援課 係長 山崎 雅也 氏

<コーディネーター> びわこ福祉の杜 代表 中原 一隆 氏

④権利擁護支援・成年後見利用促進協議会の実施（高齢者・障害者）

障害者及び高齢者の権利擁護や成年後見制度に係る専門職団体、当事者団体等による情報交換や連携強化のための会議を年2回開催した。

【第1回】

日時：令和7年10月22日（水）10：00～12：00

会場：滋賀県庁北新館 5-A 会議室

【第2回】

日時：令和8年3月11日（水）10：00～12：00

会場：滋賀県大津合同庁舎 7階 7-A 会議室

⑤関係機関との連携

各中核機関等が実施する下記協議会等に参画し、適宜情報提供等を行い連携を図った。

また、各圏域で実施されたなんでも相談会に職員を派遣した。

- ・ 長浜市成年後見・権利擁護関係者協議会/地域連携ネットワーク協議会
- ・ 彦愛犬権利擁護サポートセンター運営委員会
- ・ 米原市権利擁護センター運営委員会・権利擁護支援向上委員会
- ・ 高島市権利擁護支援ネットワーク協議会（オブザーバー）
- ・ 大津市成年後見・権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会（オブザーバー）
- ・ NPO法人成年後見センターもだま運営適正化委員会
- ・ 甲賀圏域権利擁護支援推進協議会

【なんでも相談会】

高島圏域（1回）、米原市（2回）、湖南圏域（1回）、東近江圏域（1回）、甲賀圏域（1回）

3. 権利擁護支援にかかる幅広い人材育成

①権利擁護支援総合アドバイザーの配置・派遣（高齢者・障害者）

	実施日	依頼団体	依頼内容	アドバイザー
1	令和7年9月22日（月） 13時半～15時	豊郷町保健福祉課	個別ケースのスーパーバイズおよび措置判断に関する助言	中原一隆氏 （社会福祉士） 室田剛志氏 （弁護士）
2	令和7年10月20日（月） 13時半～15時	湖南省社会福祉協議会	地域福祉権利擁護事業における死後事務についての助言（勉強会）	對馬明子氏 （司法書士）
3	令和7年10月27日（月） 10時～11時半	湖南省高齢福祉課	虐待による措置分離を行っているケースの支援方法等についての助言	中原一隆氏 （社会福祉士）
4	令和8年2月3日（火） 15時半～16時半	野洲市社会福祉協議会	地域福祉権利擁護事業利用者の詐欺被害が疑われる場合の対応及び今後の支援についての助言	室田剛志氏 （弁護士）
5	令和8年2月5日（木） 13時半～15時半	近江八幡市長寿福祉課	市内事業所のケアマネージャーを対象とした成年後見制度の理解促進およびスキル向上に向けた研修会の講師	對馬明子氏 （司法書士）
6	令和8年3月3日（火） 13時半～15時半	守山市健康福祉部長寿政策課	高齢者虐待対応に係る相談記録・帳票作成に関する研修	中原一隆氏 （社会福祉士）
7	令和8年3月4日（水） 10時～11時半	近江八幡市福祉保健部長寿福祉課・障害福祉課	中核機関設置に関する助言	中原一隆氏 （社会福祉士）
8	令和8年3月18日（水） 14時～16時 令和8年3月31日（火） 14時～16時	高島市	権利擁護支援をテーマとした職員研修の講師	桐高とよみ氏 （社会福祉士）

②権利擁護セミナーの実施 【延べ参加者数】 101名

日時	会場	内容・講師
《講義①》		
10月31日（金） 14：00～15：45	（北会場） 米原市役所 3C会議室	テーマ 暮らしの中での「権利擁護支援」を考える ・権利擁護の基本的な考え方 ・権利擁護支援の実際 ・地域でいきいきとくらすことを支えるために
11月5日（水） 14：00～15：45	（南会場） 草津市立市民交流ブ	

		ラザ 中会議室	講師 (北会場) 甲賀・湖南権利擁護支援センターぱんじー 所長 桐高 とよみ 氏 (南会場) NPO 法人成年後見センターもだま 所長 竹村 直人 氏
《講義②》			
	11月12日(水) 14:00~15:45	県立文化産業会館 会議室2	テーマ 誰かにつながり、自分らしく最期を迎えるために ～地域福祉活動の実践から学ぶ～ 講師 高島市健康福祉部社会福祉課くらし連携支援室 室長 清水 潤平 氏 SUZAKI CAFÉ 店主 洲崎 トモ子 氏
《講義③》			
	11月19日(水) 14:00~15:45	草津市立市民交流ブ ラザ 中会議室	テーマ 精神障害のある人が地域で自分らしく生きる ～誰もが“幸せになれる”地域づくりへ～ 講師 社会福祉法人とよさと ステップアップ21 相談支援課 課長 木村 和弘 氏

③高齢者虐待対応初任者研修（基本編）の実施（滋賀県社会福祉士会と共催）

【1日目】

開催日 令和7年5月29日(木) 9:30~17:10

場 所 県立長寿社会福祉センター

受講者数 49名

【2日目】

開催日 令和7年6月12日(木) 9:30~16:50

場 所 県立長寿社会福祉センター

受講者数 47名

④障害者虐待防止・権利擁護研修の実施（行政向け・施設向け）

○行政職員・虐待防止センター職員対象

開催日 令和7年8月19日(火) 9:30~16:35

場 所 県立長寿社会福祉センター

参加者 15名

内 容 講義 障害者虐待防止における市町の権限と役割について

演習 ①養護者による障害者虐待の通報受理から養護者支援の検討について

②施設従事者による障害者虐待の通報受理から事業所指導の検討について

講師 びわこ福祉の杜 代表 中原 一隆 氏

しろまち法律事務所 弁護士 田嶋 明日香 氏

甲賀・湖南権利擁護支援センターぱんじー 所長 桐高 とよみ 氏

○障害者福祉サービス事業所施設従事者等研修

内容 講義「障害者の障害者虐待の現状について」

<講師>滋賀県健康医療福祉部 障害福祉課

演習①虐待が疑われる事案への対応

②虐待防止委員会の活性化

③身体拘束適正化委員会の運営

※（演習指導者）厚生労働省：障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修修了者（各 11 名）

《南部会場》

開催日 令和7年12月4日（木）9：30～16：45

場 所 県立長寿社会福祉センター

参加者 53 名

《北部会場》

開催日 令和7年12月17日（水）10：00～17：15

場 所 COZY TOWN（コージータウン）

参加者 45 名

○国研修参加者の派遣調整

国研修受講者の派遣調整を行い、施設従事者向け研修会において国研修の内容を反映できるよう企画会議でも検討を行った。

<研修参加者3名>

びわこ福祉の杜 代表 中原 一隆 氏

社会福祉法人青い鳥会 相談支援事業所てんしん 廣田 佑一郎 氏

社会福祉法人蒲生野会 東近江地域障害者生活支援センター桜川 藤宮 祐憲 氏

⑤身体拘束廃止（ゼロ）セミナーの実施

開催日 会場：令和7年7月17日（木）13：15～16：00

オンデマンド配信 令和7年8月1日（金）～9月30日（火）

場 所 県立長寿社会福祉センター

参加者 会場受講 46 名

オンデマンド受講 563 名

内 容 滋賀県における高齢者虐待の状況など

講師 滋賀県健康医療福祉部医療福祉推進課

「一人ひとりが自分らしく暮らすために」～虐待や身体拘束の廃止・防止を目指して～

講師 及川 ゆりこ 氏（公益社団法人日本介護福祉士会 会長）

⑥権利擁護推進員（身体拘束廃止に向けた推進員）養成研修

場 所 県立長寿社会福祉センター

参加者 21 名

	開催日	時 間	内 容	講 師
①	令和7年 11月4日（火）	11:00～ 12:00	【講義】滋賀県における高齢者の 権利擁護等の取組について	滋賀県医療福祉推進課
		13:00～ 16:30	【講義】身体拘束廃止と権利擁護	大阪人間科学大学 社会 福祉学科 教授 武田 卓也氏
②	令和7年 11月10日（月）	10:00～ 16:30	【講義・演習】 身体拘束廃止等のための課題解 決の考え方	滋賀県認知症介護指導者 榎本 千代氏
③	令和7年 11月17日（月）	10:00～ 16:30	【講義・演習】 高齢者の権利擁護のための取組 ／課題解決に向けた実習計画の 作成等	びわこ福祉の杜 代表 中原 一隆氏 滋賀県認知症介護指導者 榎本 千代氏
	60 日間		自施設等の実習	
④	令和8年 1月27日（火）	10:00～ 16:30	実習報告会・意見交換	びわこ福祉の杜 代表 中原 一隆氏 滋賀県認知症介護指導者 榎本 千代氏

⑦障害者虐待防止広報啓発事業の実施

障害者虐待防止に向けた啓発および市町の対応窓口一覧等を掲載したクリアファイルを作成し、関係機関等へ配布した（500 部）。

4. 権利擁護に関わる相談対応

①障害者 110 番運営事業の実施

来所および電話での相談窓口を設置して相談員を配置（平日9時～12 時、13 時～16 時）し、相談内容に応じて、傾聴や情報提供、助言等を行った。

相談件数：100 件

レイカディア振興課

1. 滋賀県レイカディア大学の運営（草津キャンパス/彦根キャンパス）

高齢者に新しい知識と教養を身につけるための学習機会を提供し、社会参加を促すことにより、地域における担い手を養成し、地域貢献に寄与することを目的としてレイカディア大学を運営した。

（1）楽しく豊かに生きるための基礎講座および選択講座の実施

◆楽しく豊かに生きるための基礎講座（令和7年4月～令和8年3月）

学習領域	主な学習内容	学習時間（実績）		
		1 年前期 (47 期)	1 年後期 2 年前期 (46 期)	2 年後期 (45 期)
豊かに 生きる	新しい生き方、人生のヒント	[草津] 56 時間 (15 日)	[草津] 114 時間 (30 日)	[草津] 56 時間 (15 日)
健康 づくり	からだの健康、こころの健康、 つながりと健康、食と運動			
社会参加	ボランティア活動と社会貢献 活動、情報・SNS			
くらしと 地域	滋賀の魅力発見、自然と環境、 お金と就労、くらし	[彦根] 56 時間 (15 日)	[彦根] 114 時間 (30 日)	[彦根] 60 時間 (16 日)
学校行事	オリエンテーション、入学式、 卒業式、地域活動体験学習、課 題学習、ニュースポーツ大会、 大学祭、自主活動、各種部会			

◆選択講座

学習領域	主な学習内容	学習時間（実績）			
		1 年前期 (47 期)	1 年後期 2 年前期 (46 期)	2 年後期 (45 期)	合 計
園芸学科 [草津 /彦根]	樹木管理の基本、巨木・名木を 訪ねる、果樹と野菜の栽培管 理、剪定実習、郷土料理づく り、花壇づくり 他	44 時間× 3 クラス	96 時間× 2 クラス 92 時間× 1 クラス	44 時間× 3 クラス	532 時間 (133 日)
陶芸学科 [草津]	陶芸の基本、作陶、素焼、施釉、 本焼、陶芸の歴史 他	44 時間	88 時間	44 時間	176 時間 (44 日)
びわこ環 境学科 [草津]	琵琶湖の環境保全、伊吹山の 自然観察、湖北の治水、野鳥観 察、里山保全、郷土料理 他	44 時間	88 時間	44 時間	176 時間 (44 日)
地域文化 学科 [草津]	郷土理解、地域学・民俗学、近 江の歴史と文学、近江の食文 化、観光資源とボランティア 他	44 時間	88 時間	44 時間	176 時間 (44 日)
北近江文 化学科 [彦根]	北近江の歴史と文化、古地図 で訪ねる、観光資源とボランテ ィア、近江と文学、地域学 他	44 時間	92 時間	44 時間	180 時間 (45 日)

健康づくり 学科 [草津 /彦根]	健康と運動、レクリエーション、ヨガ、 高齢期のこころとからだの健康、食と栄養、調理実習、介護 予防の心得、ウォーキング 他	44 時間× 2クラス	88 時間× 2クラス	44 時間× 2クラス	356 時間 (89 日)
合 計		396 時間 (99 日)	816 時間 (204 日)	396 時間 (99 日)	1,608 時間 (402 日)

【学生数（人）】

（令和8年3月31日現在）

	草津キャンパス									彦根キャンパス									合 計		
	46 期生			47 期生			計			46 期生			47 期生			計					
園芸 A	22	11	0	24	14	1	46	25	1	23	12	2	26	9	3	49	21	5	95	46	6
		9	2			9		0			18	2			9		0			13	1
園芸 B	24	12	1	24	12	1	48	24	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	48	24	1
		11	0			12		0			23	0			-		-			-	-
陶芸	22	10	2	25	13	0	47	23	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	47	23	2
		10	0			12		0			22	0			-		-			-	-
びわ環	21	14	0	22	6	5	43	20	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43	20	5
		7	0			10		1			17	0			-		-			-	-
地域/ 北近江	27	15	0	25	20	0	52	35	0	20	10	0	14	9	1	34	19	0	86	54	1
		12	0			4		1			16	1			10		0			2	2
健康	17	3	0	23	5	0	40	8	0	20	6	0	11	4	0	31	10	0	71	18	0
		14	0			18		0			32	0			13		0			6	1
計	133	65	3	143	70	6	276	135	9	63	28	2	51	22	4	114	50	6	390	185	15
		63	2			65		2			128	4			32		1			21	4

※ 上段：男性、下段：女性。網掛けは、リカレントコース履修生数（外数）。

【学生募集・入学状況（47期生）】

	草津キャンパス	彦根キャンパス	計
定員	145 人	70 人	215 人
応募者	174 人	52 人	226 人
入学者	152 人	51 人	203 人
入学／定員	104.8%	72.9%	94.4%

① 地域活動体験学習

在学中に地域活動（ボランティア活動）を実際に体験し、地域との関わりや繋がりを自らつくり、体験を通じて地域の人々と共に課題に取り組む力を身につけた。

② 課題学習

学生自らが課題を見出し、その課題に向けた取り組みをグループで実践し、仲間づくり・まちづ

くりの取り組み方法を身につけ、卒業後の活動へとつなげた。

③ 大学祭

日頃の学びを展示・発表することを通じて、学習効果をより一層高めるとともに、仲間との交流を深め、学びを共有することができた。

〔草津キャンパス〕 開催日 令和7年7月24日（木）～7月26日（土）

会 場 県立長寿社会福祉センター

〔彦根キャンパス〕 開催日 令和7年7月18日（金）～7月19日（土）

会 場 COZY TOWN（アル・プラザ彦根 4階）

（2）公開講座の実施

レイカディア大学の学びを体験できる機会、認知度向上および卒業生の活躍の場として公開講座を実施し、あわせて大学説明会を行った。

① 公開講座・大学説明会

〔草津キャンパス〕

	開催日	内 容	参加人数
1	6月20日（金）	古地図で訪ねる近江・滋賀 講師：元滋賀県立米原高校 校長 松井 善和	25
2	7月11日（金）	パラリンピックを経験して思うこと ～共生社会 実現のために～ 講師：パラスポーツメッセンジャー 清水 千浪	11

〔彦根キャンパス〕

	開催日	内 容	参加人数
1	6月27日（金）	彦根城 ～世界遺産登録への道～ 講師：彦根市世界遺産登録推進室 c 室長補佐 三尾 次郎	4
2	7月4日（木）	クラウドファンディングで地域貢献！ 講師：合同会社 MediArt 代表 植田 淳平	4

② 学科見学会・学科説明会

〔草津キャンパス〕

	開催日	学科	内 容	参加人数
1	5月19日（月）	園芸	いわちどり・うちょう蘭・富貴蘭 講師：元滋賀県立湖南農業高校校長 井上 升二	5
2	6月4日（水）		樹木の夏期剪定実習 講師：樹木医 平塚 英史	12
3	7月14日（月）		球根と宿根草の育て方、ハンギングバスケット つくり、観葉植物の育て方 講師：フラワーアレンジメント講師	21

			水島 たず子	
4	5月12日(月)	陶芸	【作陶】鉢（応用） 講師：陶芸家 灘 さとみ	8
5	6月16日(月)		【施釉・焼成】素焼き窯出し・施釉・窯詰 講師：陶芸家 灘 さとみ	6
6	7月16日(水)		【作陶】特殊な形状の制作 (手びねりによる大型の作品) 講師：陶芸家 岡田 勲	10
7	5月2日(金)	びわこ 環境	[学ぶ観る] 琵琶湖の治水・利水と琵琶湖総合開発 講師：滋賀大学教授 石川 俊之	3
8	6月18日(水)		[学ぶ] 琵琶湖に吹く風① ケシキミと風の伝承調査 講師：琵琶湖地域環境教育研究会 松井 一幸	11
9	7月2日(水)		[学ぶ]食とエネルギー（食の部） 講師：地球温暖化防止活動推進員 山本 悦子	7
10	5月20日(火)	地域文化	明智光秀と坂本城 講師：滋賀県文化財保護課 松下 浩	14
11	6月24日(火)		織田信長と近江の武将、そしてその末裔たち ～当国一乱 信長以前の近江～ 講師：元東近江市史編纂室長 山本 一博	22
12	7月15日(火)		まちづくり講座（1）オリエンテーション 講座の目的や住民主体のまちづくりについて ～身近な問題に目を向けてみよう～ 講師：認定特定非営利活動法人しが NPO センター理事 森川 稔	7
13	5月13日(火)	健康 づくり	運動と骨粗鬆症・転倒予防 講師：滋賀県立大学 名誉教授 寄本 明	9
14	6月30日(月)		健康とレクリエーション 現在のストレス測定と改善方法 講師：元梅花女子大学教授 前山 直	21
15	7月7日(月)		健康とヨガⅡ（実技）健康寿命をのばそう 講師：ヨガインストラクター 頼角 紀子	12

[彦根キャンパス]

	開催日	学科	内 容	参加人数
1	5月23日(金)	園芸	夏の花の管理について 講師：元東近江農業者クラブ	5

			日根野 優樹	
2	6月4日(水)		野菜の栽培管理について(講義) 講師：元滋賀県立八日市南高校教諭 松原 治夫	4
3	6月11日(水)	北近江 文化	古地図で訪ねる北近江 ～読図～ 講師：元滋賀県立高等学校校長 松井 善和	8
4	7月8日(火)		北近江の自然 琵琶湖の内湖、湖北の治水 講師：元滋賀県立虎姫高校教諭 村居 利美	6
5	5月21日(水)	健康 づくり	高齢期のこころとからだの健康 ①脳の活性化 ②認知症の理解と対応 講師：元敦賀市立看護大学看護学部教授 北村 隆子	12
6	7月25日(金)		健康と運動(実技) 筋力の重要性、膝腰の痛み改善や予防のエクササイズ 講師：健康運動指導士 世森 淑	3

③ 草津キャンパスオープンキャンパス

草津キャンパスサポートの会による入学相談窓口を設置した。

開催日：令和7年7月25日(金)～7月26日(土)

会 場：県立長寿社会福祉センター 1階ロビー

(3) 学生生活の充実・卒業後の地域活動に向けたサポートの強化

① レイカディア大学の運営を支援することを目的として設置された卒業生団体「レイカディア大学サポートの会」と協働し、大学運営の充実に取り組んだ。具体的には、大学ホームページの運用管理、「シニアの学び舎」の発行・配布、選択講座における助手業務、校内環境整備など、学生生活全般にわたる支援業務をサポートの会に担っていただいた。また、学生募集活動においてはサポートの会およびレイカディア大学同窓会と連携して実施した。

② レイカディア大学学生の関心の幅を広げ、卒業後の活動へ円滑につなげることを目的とするとともに、学生と地域活動団体が一堂に会し、活動への理解促進と交流の機会を創出するため、46期生を対象とした基礎講座において「ボランティア相談会」を実施した。

[草津キャンパス] 開催日 令和8年3月13日(金)

会 場 県立長寿社会福祉センター

参加団体数：18団体

[彦根キャンパス] 開催日 令和8年3月26日(木)

会 場 COZY TOWN (アル・プラザ彦根 4階)

参加団体数：10団体

(4) 三日月大造滋賀県知事による基礎講座・卒業生とのパネルトーク開催

開催日：令和8年2月12日（木） 13時～15時

会 場：栗東芸術文化会館 SAKIRA 大ホール

パネルトーク登壇者：卒業生6名

参加者数：529名

(5) 他府県シニア大学との交流

京都 SKY シニア大学へ出講し、レイカディア大学の取り組みを紹介するとともに、地域活動や生きがい、健康づくり等について意見交換を行った。

開催日 令和7年7月1日（火）10：00～12：00

会 場 ハートピア京都

参加者 草津・彦根サポートの会：8名 京都 SKY シニア大学学生 33名

2. アクティブシニアの健康と生きがいづくりの推進

高齢者のスポーツ・文化活動に親しむ機会や日ごろの生きがいづくり活動を発表する場の提供を通じて、また高齢者自らが活動に参画することにより、健康や生きがいづくりに対する意識の高揚を図るとともに、地域間・世代間の交流促進、社会参加の拡大を推進した。

(1) ねんりんピックびわこ・レイカディア県民大会：計27種目開催

【スポーツ等交流大会】23種目

種 目	実 施 日	会 場
卓 球	5月17日（土）	能登川アリーナ
テニス	4月7日（月）	滋賀県希望が丘文化公園テニスコート
ソフトテニス	5月5日（月・祝）	県民共済ドーム長浜
ソフトボール	4月27日（日） 5月4日（日）	皇子山総合運動公園多目的運動広場
ゲートボール	5月16日（金）	彦根市中老人福祉センター 室内ゲートボール場
パタンク	5月24日（土）	大津市和邇市民運動広場
ゴルフ	10月7日（火） 11月10日（月）	大甲賀カントリークラブ ジャパンエースゴルフ倶楽部
マラソン	11月16日（日）	近江八幡市立運動公園周辺
弓 道	5月17日（土）	プロシードアリーナ HIKONE
剣 道	4月20日（日）	湖南市総合体育館
水 泳	5月18日（日）	滋賀県立障害者福祉センター
グラウンド・ゴルフ	9月4日（木） ～10月30日（木） 11月27日（木）	マキノ高原GG場 他 滋賀県希望が丘文化公園GG場
ラグビーフットボール	4月20日（日）	ビックレイクグラウンド
サッカー	5月6日（火・祝）	ビックレイク

ソフトバレーボール	4月27日(日)	甲賀市水口体育館
ウォークラリー	5月25日(日)	大津市膳所
太極拳	6月1日(日)	ひこね市文化プラザ
ディスクゴルフ	4月20日(日)	希望ヶ丘文化公園
オリエンテーリング	5月31日(土)	なぎさ公園
ターゲット・バードゴルフ	4月10日(木)	杣川運動公園 新杣川河川敷コース
バウンドテニス	5月11日(日)	大津市瀬田公園体育館
パドルテニス	4月13日(日)	SG ホールディングスグループ総合体育館 2F「アリーナ」
ローイング	5月24日(土)	関西みらいローイングセンター (滋賀県立琵琶湖漕艇場)

【文化等交流大会】4種目

種 目	実 施 日	会 場
囲 碁	5月3日(土・祝)	滋賀県立彦根東高等学校第2別館2階会議室
将 棋	4月6日(日)	コミュニティセンターやす
俳 句	10月25日(土)	大津市勤労福祉センター
健康マージャン	5月18日(日)	草津市立市民交流プラザ

【次年度大会説明会】

開催日 令和8年1月31日(土)

開催会場 県立長寿社会福祉センター

(2) 全国健康福祉祭ぎふ大会へ滋賀県選手団を派遣

① 滋賀県選手団結団式・全体説明会

開催日 令和7年9月24日(水)

開催会場 県立長寿社会福祉センター

② 第37回全国健康福祉祭ぎふ大会

開催日 令和7年10月18日(土)～21日(火)

開催地 岐阜市ほか

(3) 第34回滋賀県レイカディア美術展の開催

・出品全作品の展示

開催日 令和7年5月28日(水)～6月1日(日)

会 場 COZY TOWN (アル・プラザ彦根4階)

作品数 179点(日本画11点、洋画50点、彫刻5点、工芸27点、書35点、
写真51点)

来場者数 635名

・入賞・表彰作品の展示

開催日 令和7年6月3日(火)～6月8日(日)

会 場 滋賀県立美術館 1階 ギャラリー

来場者数 575 名

・審査会の開催

開催日 令和7年5月25日(日)・26日(月)

会 場 COZY TOWN (アル・プラザ彦根4階)

内 容 入賞(滋賀県知事賞、滋賀県社会福祉協議会会長賞、後援団体賞、奨励賞)、
表彰(アクティブシニア表彰)の審査

・表彰式の開催

開催日 令和7年6月8日(日)

会 場 滋賀県立美術館 1階 木のホール

対 象 入賞(滋賀県知事賞、滋賀県社会福祉協議会会長賞、後援団体賞、奨励賞)、
表彰(アクティブシニア表彰)

・実行委員会の開催

3回開催(令和7年1月27日(月)、5月12日(月)、7月28日(月))

・展示会の動画を配信

3. アクティブシニアに関する情報の発信

中高年者の生きがい・健康づくりについての啓発、普及を行うために、高齢期の社会参加や生きがいづくりの促進につながる情報および健康に関する情報等を発信し、豊かで生きいきとした長寿社会づくりの意識を高めた。

(1) レイカディア通信(アクティブシニア世代情報誌)の発行

・第17号: 令和7年8月発行、3,500部発行

テーマ:「伝統を紡ぐ ～糸引きの里を訪ねて～/埋もれた自然と歴史文化資源を活かしたツーリズム」

・第18号: 令和8年2月発行、3,500部発行

テーマ:「ねんりんピック岐阜大会参加報告」

(2) びわこシニアネットの運営及び情報発信

・ボランティアによるHP更新: 毎週月・木曜日、ボランティア登録者数4名
更新回数 37回

・びわこシニアネットアクセス件数

令和8年3月31日現在: 290,414件

令和7年4月1日～令和8年3月31日アクセス数: 8,373件 1日平均22.9件

(3) レイカディアえにしの会との協働による卒業生の地域での活躍を発信

びわこシニアネット内に、レイカディア大学卒業生の地域活動の検索システム「生きがいの森」において、在学生の活動のきっかけとなる情報を掲載した。

検索数807件(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

しがレイカディア・エクステンションセンター（S L E C）

1. “ともに生きる社会参加の活動基盤”としてのともいきプラットフォームの開設

令和7年8月よりレイカディアえにしの会との協働によるともいきプラットフォーム運営体制とし、協働推進委員会を設置した。 第1回 協働推進委員会 令和7年10月27日

2. “多様性に富む学び”としてのSLEC 友活講座の実施

趣味・生きがいがづくり、社会参加・貢献に活かせるスキルを身につけることを目的に講座を企画し実施した。レイカディア大学卒業生(グループ)を講師とし、多様な学びの場として、計14回開催し、延べ152名が参加した。

講座名	内 容	講 師	会場	開催日	参加者数
折紙講座	季節に応じた作品など、テキストを基に基礎を学ぶ。	レイカディアえにしの会 研修部会 坂 百合子氏	彦根	5月26日	13
バルーンアート ボランティア 養成講座	バルーンアートの基礎やバルーンを使ったレクリエーションの体験など	レイカディアえにしの会 里 仁氏	彦根	7月7日	15
オリジナル 紙芝居創作講座 《5日間コース》	紙芝居の制作から発表までを実施。	レイカディアえにしの会 (坂 早百合氏)	彦根	8月22日	5
			彦根	9月17日	7
			彦根	10月17日	8
			彦根	10月31日	8
			彦根	11月14日	7
小仏地蔵 彫刻講座 《5日間コース》	の彫刻刀を使って、小仏地蔵（初心地蔵）を製作する。	仏師 黄地 浩氏 (レイカディア大学 卒業生)	彦根	11月11日	11
			彦根	11月14日	11
			彦根	11月21日	11
			彦根	12月3日	8
			彦根	12月19日	10
寄せ植え講座	クリスマスからお正月にぴったりの寄せ植えをつくる。	レイカディアえにしの会 廣原美照氏	彦根	11月27日	7

陶芸講座 (初心者向け) ≪2日間コース≫	手びねりや、手回し ろくろを使って作陶 する。	レイカディア えにしの会 橋爪一雄氏	彦根	2月11日	16
			多賀	3月10日	15
合 計					152 名

3. “自分磨きの居場所”としての「ベース友活」の実施

前半は、ゲストスピーカーや会員による「テーマトーク」や、さまざまな体験や交流を交えての「ワークショップ」を、後半は参加者同士が自由に語りあう交流を、COZYTOWN カフェ交流スペースで開催した。概ね月に2回、全21回開催し、延べ241名の参加があった。

月	日	内 容		話題提供者(講師)	参加者数
4	4	テーマトーク	「コンピューターとかかわり人生」 お花見懇親会	野川 篤美氏(えにしの会)	16
	21	テーマトーク	「仏像彫刻と釣鐘」	黄地 浩氏(仏師)	14
5	2	テーマトーク	彦根市社協持ち込み企画 「マンション暮らしについて語ろう」	彦根市社協CSW 5名	12
	19	テーマトーク	「四国遍路」	池田 和康氏(えにしの会)	10
6	6	テーマトーク	「職歴と地域活動・ボランティア」	里 仁氏(えにしの会)	11
	16	テーマトーク	セカンドライサロン おやじのたまり場の活動紹介	山本 眞氏 (おやじのたまり場事務局長)	12
7	4	ワークショップ	バランスボールに挑戦	伊吹 みさき氏 (バランスボールインストラクター)	13
8	1	ワークショップ	複写はがき体験	北村 遥明氏(個人)	15
	18	ワークショップ	おとなの縁日 (千本釣り、射的、かき氷)	全員 つな若センター若者4名参加	11
9	5	テーマトーク	「私の履歴書」	奥長 裕幸氏(えにしの会)	14
10	3	ワークショップ	ハンドドリップコーヒー で気軽に美味しいコーヒーを	全員	11
	20	ワークショップ	Eスポーツ体験「スイッチ」	全員	11
11	7	テーマトーク	「ボランティアの楽しさ」	葛城 朋子(事務局)	13
	17	テーマトーク	「幸せってなんだろう」	遠城 孝幸(事務局)	8

12	5	ワークショップ	ワイガヤしめくり懇親会	全員	9
	15	トーク	「これまでの人生・これからの人生」	廣原 美照氏（えにしの会）	11
1	19	ワークショップ	新年交流会	全員	14
2	6	ワークショップ	身近なものを使って 「防災ワークショップ」	葛城 朋子（事務局）	10
	16	ワークショップ	ビブリオバトル	全員	14
3	6	トーク	哲学対話「健幸とは」	全員	10
	16	ワークショップ	ホワイトボードを使った 脳トレレクリーション	葛城 朋子（事務局）	13
合計					241 名

4. SLEC推進委員会の開催

SLEC マスタープランの策定をもとに、多様な学びの場「友活講座」、集う場としての「ベース友活」、シニアの社会参加の基盤としての「ともなび」の好循環をめざし、より一体的に事業を展開できるよう、体制づくりについて協議・検討を行った。

滋賀県介護・福祉人材センター

1. 無料職業紹介事業

福祉の仕事に関する県内唯一の無料職業紹介機関として、求職者並びに法人・事業所に対してサポートを行い、介護人材不足に対する取組を行った。

(1) 求職者と求人事業所とのマッチング

- ①窓口業務：求職者（電話）
くさつセンター 2,417 件
ひこねセンター 979 件
(来所) くさつセンター 270 件 ひこねセンター 103 件
：事業所（電話等）くさつセンター 2,689 件 ひこねセンター 1,234 件
(来所・訪問) くさつセンター 104 件 ひこねセンター 86 件
- ②出張相談：ハローワーク大津（毎月第3火曜日） 12回 相談者 9名
シニアジョブステーション（毎月第2木曜日） 2回 相談者 2名
滋賀マザージョブステーション（毎月第4水曜日） 5回 相談者 5名

(2) キャリアデザイン相談窓口の開設

- ・キャリア支援専門員によるトータルサポートの専用窓口（電話、対面）開設は令和8年度に持ち越した。

2. 人材確保

職場体験メニューの充実（半日型の実施）をして実施。また、高校生をターゲットに福祉やケアへの関心を高める取組を実施し、就労の選択肢に福祉を検討してもらえるように展開した。

(1) 未来のケアを支える若者の福祉やケアとの出会い創出

①高校生や大学生等を対象とした「ふく・楽カフェ」

- ・日野高校（2年生） 33名
- ・滋賀学園高校（2年生） 34名
- ・栗東高校（1年生） 4名
- ・玉川高校（2年生） 1名
- ・八幡高校（2年生） 28名
- ・愛知高校（2年生） 10名
- ・彦根総合高校（2年生） 11名
- ・彦根中学校（1年生） 12名
- ・野洲中学校（1年生） 29名

②高校生向け職場体験

- ・体験者 4名（延べ10日間）※守山高校、野洲高校、幸福の科学高校、司学館高校、

③学生向け広報資料の作成

- ・中学3年生～高校3年生までをターゲットとしたパンフレットの作成

※配布は令和8年度より開始

④教員向けキャリア教育講演会
実施できず

(2) 介護・福祉の職場体験の充実

①助成金付き職場体験事業

・体験者数 51名（内学生10名） 登録者数 37名 採用者数 23名

②求職者ニーズ(有資格者/無資格者/経験者/未経験者等)に応じた職場体験メニューの充実

- ・1日型の体験+半日型（午前・午後どちらか）の実施。
- ・体験者の希望による体験内容を体験受入先と共有することにより充実した体験が出来るように努めた。

(3) 多様な人材層の参入、確保

①カイゴとフクシ就職フェア in しが

- ・6月7日（土）琵琶湖ホテル 参加者総数：34名 採用者数：2名
 - ・6月21日（土）アル・プラザ彦根 参加者総数：30名 採用者数：7名
 - ・6月29日（日）クサツエストピアホテル 参加者総数：55名 採用者数：6名
 - ・令和8年2月23日（祝）クサツエストピアホテル 参加者総数：45名 ※採用者数：
 - ・令和8年3月8日（日）アル・プラザ彦根 参加者総数：21名 ※採用者数：
- （※の採用者は令和8年5月にカウント予定）

②地域・圏域別介護・福祉の職場説明会、職場ガイダンス、入門セミナー

職場説明会：くさつセンター

・実施回数：10回 参加者総数：160名 採用者数：20名

職場説明会：ひこねセンター

・実施回数：11回 参加者総数：75名 採用者数：7名

職場ガイダンス：くさつセンター（大津、草津、甲賀、東近江、高島のHW）

・総実施回数：42回 参加者総数：694名 採用者数：2名

職場ガイダンス：ひこねセンター

・総実施回数：24回 参加者総数：272名 参加者：2名

入門セミナー：くさつセンターのみ（毎月第2金曜日開催）

・実施回数：12回 参加者：39名（オンライン3名）

③介護に関する入門的研修の実施

- ・5月26日～30日 守山市民ホール 参加者：34名
- ・10月16日～23日 県立長寿社会福祉センター 参加者：21名
- ・12月3日～9日 アル・プラザ彦根 参加者：26名

④圏域・市町単位での人材確保の取組強化

☆就労支援

- ・9月20日（土）大津市 入門的研修就労支援
- ・10月11日（土）近江八幡市 入門的研修就労支援
- ・10月22日（水）野州市 介護基本講座就労支援

- ・11月12日（水）東近江市 介護と福祉の職場見学バスツアー就労支援
- ・11月16日（土）甲賀市 介護の担い手研修就労支援
- ・12月3日（水）野洲市 入門的研修就労支援
- ・12月20日（土）湖南市 入門的研修就労支援
- ・令和8年2月18日（水）甲賀市 介護の担い手研修就労支援

☆圏域就職フェア参加

- ・8月28日（木）湖東圏域 福祉の仕事就職フェア@プロシードアリーナ
- ・10月25日（土）近江八幡市 看護・介護合同説明会&面接会@G-NET
- ・11月29日（土）湖北圏域 福祉の就職フェア@米原市役所
- ・12月5日（金）高島市 介護と福祉の就職フェア@安曇川公民館
- ・令和8年2月26日（木）湖東圏域 福祉の就職フェア@プロシードアリーナ

⑤人材センター広報資料の充実(パンフレット、動画作成 等)

- ・令和7年12月に人材センターパンフレットの新規作成
- ・令和8年3月に若者向け（15～18歳向け）パンフレットの新規作成

(4) 伴走型キャリアサポート付き「介護職員初任者研修」の実施

(コロナ特例貸付フォローアップ支援事業との協働)

- ・家族のケアや経済的に困難な状況にある人等が介護職員初任者研修を経て介護の職場で専門職として従事し定着していけるよう、関係団体との連携協働のもと、きめ細かなサポートを提供する。
- ・開催日程：令和7年7月9日（水）～令和7年10月15日（水）
- ・開催会場：コープぜぜ（大津市竜が丘1-1）
- ・受講者数：5名（申込者8名）
- ・修了者数：5名
- ・就労者数：3名

3. 定着支援

(1) 滋賀介護の職場合同入職式およびフォローアップ研修・交流会

フォローアップ研修・交流会

- ・開催日：令和8年3月4日（水）
- ・会場：県立長寿社会福祉センター
- ・参加人数：38名

(2) 定着支援を目的とした現任職員の交流・研修の場としての「ふく・楽カフェ」

福祉人研修新任期（南部会場）

- ・開催日、会場：7月3日（木） 県立長寿社会福祉センター
- ・参加人数：63名

北部会場

- ・開催日、会場：アル・プラザ彦根
- ・参加人数：32名

福祉人研修中堅期

- ・開催日、会場：県立長寿社会福祉センター
- ・参加人数：62 名

(3) メンター制度等の職場内の支援体制の強化

メンター育成研修の開催@県立長寿社会福祉センター

- ・キックオフ：4月24日（木）
受講生：33 名
管理者：22 名
- ・実践のためのワーク：5月8日（木）
- ・フォローアップ：9月1日（月）
- ・秋のオンライン相談：10月1日（水）～令和8年1月31日（土）
- ・成果報告会：令和8年3月5日（木）

(4) 福祉施設・事業所向けセミナー

- ・実施できず

(5) 滋賀県介護現場革新サポートデスクとの連携・協働

- ・サポートデスク管理の介護ロボット・ICT 補助金申請事業所を共有し、求職者に対し各事業所の取組等を伝え、介護事業所への就労のきっかけにしてもらえるよう努めた。
- ・人材センター主催の就職フェアにサポートデスク職員も参加してもらい、サポートデスクの取組等を周知してもらえるよう努めた。

滋賀県社会福祉研修センター

1. 「滋賀の福祉人」研修

県、大津市と本会による三者協定「滋賀の福祉人の育成に関する協定」（平成30年12月7日締結、令和4年3月1日一部改定）に基づき、令和4年度より「滋賀の福祉人研修」を実施。県内の福祉従事者の福祉の専門性として、価値（考え方）に重点を置き、自らの福祉観を育むよう、内容充実に努めた。

(1) 社会福祉共通研修

①新任期（原則3年未満）	（3日×2コース）	【修了者数】59人
②中堅期（原則5年未満）	（3日×1コース）	【修了者数】30人
③チームリーダー	（3日×1コース）	【修了者数】27人
④管理職	（3日×1コース）	【修了者数】19人

※「滋賀の福祉人」とは

「滋賀の福祉人」とは、支援の知識や技術を支える基本となる支援者としての高い倫理観や価値観を有し、それらを土台に据えて主体的に日々の福祉実践を行う人材をいう。

2. 介護分野で働く「滋賀の福祉人」育成研修

(1) 介護職階層別

①新任期（原則3年未満）	（5日×3コース）	〔修了者数〕 37人
②中堅期（原則5年未満）	（5日×1コース）	〔修了者数〕 36人
③チームリーダー	（5日×1コース）	〔修了者数〕 18人
④管理職	（4日×1コース）	〔修了者数〕 12人

(2) 介護職員チームリーダー養成研修（17日×2コース）〔修了者数〕 30人

3. 課題別研修

(1) 障害福祉分野等における対人支援のための記録入門研修（2日×1コース）〔修了者数〕 45人

(2) 高齢福祉分野における対人支援のための記録入門研修（2日×1コース）〔修了者数〕 32人

(3) OJT推進リーダー研修（3日×1コース）〔修了者数〕 59人

(4) キャリアデザイン研修

①新任期（2日×1コース）〔修了者〕 48名

②チームリーダー（2日×1コース）〔修了者〕 59名

4. 介護支援専門員の法定研修事業 ※一部科目はオンデマンド受講

(1) 介護支援専門員実務研修（91時間×4コース）〔修了者数〕 149人

(2) 介護支援専門員専門課程Ⅰ（56時間×3コース）〔修了者数〕 68人

(3) 介護支援専門員専門課程Ⅱ（32時間×5コース）〔修了者数〕 255人

(4) 介護支援専門員再研修（55時間×3コース）※更新研修Ⅱと同時実施〔修了者数〕 46人

(5) 介護支援専門員更新研修Ⅱ（55時間×3コース）※再研修と同時実施〔修了者数〕 69人

(6) 主任介護支援専門員研修（70時間×1コース）〔修了者数〕 52人

5. 認知症に関する専門的研修事業

(1) 認知症介護基礎研修 集合（1日×2コース）〔修了者数〕 76人

e-ラーニング（随時）〔修了者数〕 789人

(2) 認知症介護実践者研修（6日×3コース）〔修了者数〕 168人

(3) 認知症介護実践リーダー研修（7日×1コース）〔修了者数〕 67人

(4) 認知症介護実践リーダーフォローアップ研修（5日×1コース）〔修了者数〕 6人

(5) 認知症介護サービス事業開設者研修（1日×1回）〔修了者数〕 11人

(6) 認知症対応型サービス事業管理者研修（2日×2コース）〔修了者数〕 40人

(7) 小規模多機能型サービス等計画作成者研修（2日×2コース）〔修了者数〕 28人

6. えにしアカデミー

(1) 第3期生の修了

①修了論文発表会の開催

開催日 令和7年8月6日（水）

場 所 県立長寿社会福祉センター 第1研修室

出席者 58名

②第3期生修了式の開催

開催日 令和7年9月9日(木)

場 所 県立長寿社会福祉センター 大教室

出席者 35名(うち第3期修了生15名)

③滋賀の福祉人マスター授与

修了生(3期生)15名

(2) 第5期生の募集と入学式の開催

①第5期生の入学者数

入学生数 16名(定員15名)

②第5期生入学式の開催

開催日 令和7年10月7日(火)

場 所 県立長寿社会福祉センター 大教室

出席者 42名(うち5期生入学生16名)

(3) 講義等の実施

①講義実施状況

令和7年4月～令和8年3月 オンライン講義 30回

集合講義 7回

②ゼミ実施状況(令和7年4月～令和8年3月)

・3期生(令和7年4月～令和7年9月)

15名の学生が5つのゼミクラスに分かれて月1～2回実施

修了論文作成に向けた指導および意見交換

・4期生(令和7年4月～8月)

日程	授業内容
4月	修了論文テーマについて
5月	修了論文テーマについて
6月	批判的思考
7月	文章の書き方
8月	修了論文テーマについて

・4期生(令和7年10月～令和8年3月)

13名の学生が4つのゼミクラスに分かれて月1～2回実施

修了論文作成に向けた指導および意見交換

・5期生(令和7年10月～令和8年3月)

「困難に直面したときに、手にとった文献について」プレゼンテーション実施

(4) 4期生修了論文構想発表会の開催

開催日 令和8年1月6日(火)

場 所 草津市立市民総合交流センター(キラリエ草津)402会議室

出席者 36名(うち4期生13名含む)

内 容 研究方法、修了論文の章立て(各章のテーマ)などについて発表

- (5) えにしアカデミー修了論文集の作成および販売
3期生 15 名の修了論文を論文集にして作成。

7. 「滋賀の福祉人マスター」および在籍事業所の推奨と協議による人材確保、定着促進

- ・「滋賀の福祉人マスター」在籍事業所への助成事業
 - ▶ 1期生(3年目助成)
助成件数:14 名(14 事業所)
助成実績額:1,320,347 円
助成期間:令和7年4月1日から令和8年3月31日
 - ▶ 2期生(2年目助成)
助成件数:7名(7事業所)
助成実績額:652, 007円
助成期間:令和7年4月1日から令和8年3月31日
 - ▶ 3期生(1年目助成)
助成件数:6名(6事業所)
助成実績額:300, 000円
助成期間:令和7年 10 月1日から令和8年3月31日
- ・「滋賀の福祉」実践推進事業所推奨事業
日時:令和8年1月20日 16:00~16:30
会場:滋賀県危機管理センター
推奨事業所:7事業所(えにしアカデミー第2期生)

8. 書籍「未来へつなぐ福祉滋賀」の作成

福祉現場で働く方々を対象に「滋賀の福祉」の歴史と実践から、ひとりひとりが社会福祉の実践者となる考え方を学んでいただくための書籍を公益財団法人ダイトロン福祉財団の助成を受け作成した。

- ・書籍「未来へつなぐ福祉滋賀」 1,000 部 中央法規出版株式会社

【滋賀県福祉用具センター】

1. 抱え上げない介護推進事業

・職員の腰痛予防等労働安全衛生やケアの質の向上に有効な抱え上げない介護の推進に向け、啓発、取組事業所の創成、取組の定着を目的とする研修を開催した。また、一定の研修を修了し、モデル事業となりうる実践を継続している事業所を「抱え上げない介護推進事業所」として実施。新規3事業所、継続7事業所を推奨した。

- | | | | |
|-----------------------|-----------|---------------|-------|
| (1) 抱え上げない介護入門研修 | (1日) | [受講者実人数] | 95人 |
| (2) 抱え上げない介護実践研修 | (5日×2コース) | [受講事業所数] | 12事業所 |
| (3) 抱え上げない介護定着研修① | (1日×2回) | [受講事業所数] | 13事業所 |
| 抱え上げない介護定着研修② | (1日×2回) | [受講事業所数] | 14事業所 |
| (4) 抱え上げない介護推進事業所見学会 | (3推進事業所) | [参加事業所数] | 13事業所 |
| (5) 抱え上げない介護推進事業所推奨事業 | [推奨決定事業所] | 新規3事業所、更新7事業所 | |

- ・社会福祉法人よつば会 特別養護老人ホームやわらぎ苑
- ・社会福祉法人恩賜財団済生会支部滋賀県済生会 特別養護老人ホーム淡海荘
- ・株式会社 JA ゆうハート 信楽ヘルパーステーション
- ・社会福祉法人びわこ学園 知的障害児者地域生活支援センターさくらはうす
- ・社会福祉法人華頂会 特別養護老人ホーム福寿荘
- ・医療法人湖青会 高齢者グループホーム南志賀の里
- ・社会福祉法人慈恵会 特別養護老人ホームゆいの里
- ・社会福祉法人近江ちいろば会 ぼだいじデイサービスセンター虹
- ・社会福祉法人近江ちいろば会 グループホームぼだいじ
- ・株式会社 JA ゆうハート 水口ヘルパーステーション

(6) 在宅介護者への普及に向けた取組

リーフレット配布、介護福祉関連イベントでの抱え上げない介護体験ブース出展、医療専門職との研修共催を行った。

2. 滋賀県介護現場革新サポートデスク（介護生産性向上総合推進事業）

(1) 介護現場革新サポートデスクの周知・利用促進

- ① 介護サービス事業者関係団体や介護福祉関係専門職関係団体の総会へ参加し、サポートデスクの事業紹介を行った。
- ② 介護・福祉人材センターの就職フェアにて周知案内、社会福祉研修センター主催研修受講者への広報等を行った。
- ③ 湖東地域障害者自立支援協議会や長浜米原しょうがい者自立支援協議会が開催した、展示会に相談ブースとして出展し、個別相談につなげた。

(2) 専門相談支援

各事業所からの相談に対して、サポートデスク職員やしが介護現場革新アドバイザーと連携し、機器の導入をはじめ、業務改善の取り組み事例や介護ロボット・ICT 機器等の活用方法などの対応を行った。

① 個別相談対応 85 件

相談方法	電話 (46)、来所 (13)、アドバイザー派遣 (13)、メール・FAX (8)、その他 (5)
相談者職種	施設長・管理者 (41)、介護職員 (11)、事務職 (7)、介護支援専門員 (4)、看護職員 (2)、機能訓練指導員 (1)、生活相談員 (1)、その他 (1)、不明 (17)
相談者サービス種別	介護老人福祉施設(24)、介護老人保健施設(8)、小規模多機能型居宅介護(7)、認知症対応型共同生活介護(7)、特定施設入居者生活介護(6)、障害福祉サービス（施設系）(6)、障害福祉サービス（日中活動系）(4)、訪問介護(3)、通所介護（予防含む）(3)、通所リハビリテーション(3)、地域密着型介護老人福祉施設(3)、障害福祉サービス（相談系）(2)、地域密着型通所介護(1)、看護小規模多機能型居宅介護(1)、訪問看護(1)、軽費老人ホーム(1)、障害福祉サービス（訪問系）(1)、開発企業・メーカー(1)、その他 (3)

② アドバイザー派遣 13 件

派遣先	派遣件数	相談概要
介護老人福祉施設	6 件	・ ICT/見守り機器導入（見守り機器、介護ソフト等）の運用・見学 ・ 加算取得支援（科学的介護、BCP、生産性向上体制加算） ・ 補助金活用のアドバイス
認知症対応型共同生活介護	3 件	・ 施設見学を通じた業務改善の相談 ・ 職員の悩みや課題整理、計画的な改善計画への助言
特定施設入居者生活介護	1 件	・ 前年度からの継続支援、アドバイザー施設への実用見学
障害福祉サービス（施設系）	1 件	・ 人材育成（新任職員向け研修、指導側の介護技術研修）
障害福祉サービス（通所系）	1 件	・ 生産性向上、業務改善のアドバイス（ワークショップ実施） ・ DX 化による負担軽減、生産性向上の取組ステップ説明 ・ テクノロジーの紹介

③ 専門相談会 10 回実施

参加事業所数	143 事業所
参加事業所サービス種別	介護老人福祉施設 (29)、介護老人保健施設 (17)、通所介護（予防含む）(17)、認知症対応型共同生活介護 (17)、訪問介護 (14)、居宅介護支援 (12)、小規模多機能型居宅介護 (11)、地域密着型通所介護 (9)、地域密着型介護老人福祉施設 (7)、通所リハビリテーション (2)、特定施設入居者生活介護 (2)、看護小規模多機能型居宅介護 (2)、訪問看護 (2)、介護医療院 (1)、その他 (2)

(3) 介護現場革新に関する研修会の実施

介護現場革新や業務改善の必要性、方法、先進事例などを広く普及・啓発することを目的とした

研修を開催した。

- ① 「ただの導入」で終わらせない！テクノロジー×介護現場革新による持続可能な経営戦略セミナー (1日) [受講者数] 75人
- ② “ノーリフティング”が未来を守る
～抱え上げない介護で介護現場革新～ (1日) [受講者数] 66人
- ③ しが介護デジタル中核人材育成研修
～AI・ICTを活用した間接業務生産性向上のテクニック～ (3日) [受講者数] 47人

(4) 介護ロボット等の展示会（福祉用具セミナー・展示体験会）

テーマ	「介護テクノロジーでケア革命」
開催日	令和7年11月27日（木）
会場	県立長寿社会福祉センター
共催	滋賀県立リハビリテーションセンター、日本福祉用具供給協会滋賀ブロック、滋賀県介護支援専門員連絡協議会、滋賀県介護現場革新サポートデスク
協力	滋賀県作業療法士会、日本ノーリフト協会滋賀支部、滋賀県障害者IT支援センター、他32メーカー
後援	滋賀県、大津市、草津市
内容	スペシャルセミナー「介護テクノロジーでケア革命」～今日から変わる！私たちの働き方、介護現場の未来～、製品プレゼンテーション、製品展示体験、相談
参加者	80人

(5) 介護ロボット等の試用貸出支援 11件

介護ロボット・ICTの普及を目的に、機器に関する相談やメーカー企業の紹介、機器の試用貸出支援を行った。

	内容
貸出事業所 サービス種別	介護老人福祉施設 ⁽⁴⁾ 、介護老人保健施設 ⁽²⁾ 、小規模多機能型居宅介護 ⁽¹⁾ 、地域密着型介護老人福祉施設 ⁽²⁾ 、特定施設入居者生活介護 ⁽²⁾
貸出機器分類	移乗介助（非装着） ⁽¹¹⁾

(6) 滋賀県介護現場革新に向けた先駆的モデル事業所見学相談会

・先駆的モデル事業所見学相談会（4事業所） [参加者数] 56人

3. 福祉用具を活用したケアの普及

(1) 福祉用具セミナー・展示体験会の開催（再掲）

(2) 福祉用具を活用したよりよい暮らしや介護負担軽減のための相談支援

医療・福祉サービスの利用者やその家族、施設・事業所等関係機関から、福祉用具や住宅改修等の相談を受け、アセスメント、選定、使い方の助言・指導、フォローアップ等を行った。

①福祉用具・住宅改修に関する専門的な相談対応 151件

	内容
相談方法	来所 ⁽⁷²⁾ 、電話 ⁽⁷⁹⁾ 、訪問 ⁽⁸⁾ 、Eメール ⁽⁸⁾

相談者	福祉医療職 ⁽⁴¹⁾ 、家族 ⁽⁶⁴⁾ 、本人 ⁽³³⁾ 、福祉用具事業所 ⁽³⁾ 、その他 ⁽¹¹⁾
相談内容 ^(延べ)	用具紹介 ⁽¹⁰⁸⁾ 、選定 ⁽⁵⁶⁾ 、改造 ⁽¹¹⁾ 、住宅改修 ⁽⁴⁾ 、制度 ⁽⁸⁾ 、その他 ⁽⁶⁴⁾
用具品目 ^(延べ)	衣類 ⁽¹¹⁾ 、コミュニケーション支援機器 ⁽¹⁶⁾ 、移乗用具 ⁽¹⁸⁾ 車いす ⁽¹⁹⁾ 、住宅関連用具 ⁽⁷⁾ 、姿勢管理用具 ⁽⁴⁾ 、入浴用具 ⁽¹⁹⁾ 、 歩行支援用具 ⁽³¹⁾ 、ベッド ⁽²²⁾ 、食事用具 ⁽⁹⁾ 、排泄用具 ⁽¹⁴⁾ 、 褥瘡予防用具 ⁽³⁾ 、認知症関連用具 ⁽⁰⁾ 、その他 ⁽³²⁾

②福祉用具等の改造・製作 7件

福祉用具の種類	改造・製作の主な内容	件数
衣類	衣類の改造	7件

(3) センターでの常設展示、見学対応、展示用具の貸出

①福祉用具センター展示

428 点の福祉用具を展示（令和8年3月末日現在）

②展示福祉用具の試用評価および貸出等による活用

・試用評価貸出者 178 人 貸出点数 229 点

分類別貸出用具点数			
自助具	76 点	コミュニケーション関連	27 点
排泄用具	35 点	入浴用品	22 点
歩行支援	10 点	家具・手すり住宅関連	7 点
移乗用具・リフト	29 点	車いす・車いす関連	2 点
衣類・靴	13 点	褥瘡予防	7 点
住宅	1 点		

・研修・地域イベント等への福祉用具の外部への貸出 36 件

借用者	件数
福祉関係機関・団体等	32 件
福祉用具販売事業所	4 件

③福祉用具センター見学者等の受け入れ

・福祉用具センター来所者数 2,410 人

団体見学（14 団体）	242 人	主催研修（32 回）	77 人
個人見学	196 人	外部依頼研修（6 件）	154 人
来所相談	132 人	その他来館者	731 人
福祉用具試用貸出	178 人		

・福祉用具センター利用者数 2,899 人

来所者	2,410 人	来所以外の相談	79 人
出前講座・出前展示	400 人	オンライン会議	10 名

(4) 福祉用具に関する専門研修の実施

福祉用具を活用した安全で快適なケア現場づくりを進めるために、介護・福祉事業所を対象にし

た福祉用具・住宅改修に関する専門的研修を実施した。

- ① 福祉用具・住宅改修基礎研修 (2日) [受講者実人数] 40人
 - ② 福祉用具プランナー認定講習集合講習 (9日) [修了者数] 22人
 - ③ リフトリーダー養成研修 (2日) [受講者実人数] 22人
 - ④ ICTを活用したコミュニケーション支援研修(テーマ別研修)(1日) [受講者数] 30人
- (5) ホームページ、SNS、啓発資料による情報発信
- ・ホームページ、フェイスブック、インスタグラムを活用し、福祉用具センター事業の案内、抱え上げない介護情報、製品情報等の発信を行った。

(6) ICTを活用したコミュニケーション支援に関する協議会の開催

開催日	協議事項および結果
令和7年9月22日	・リソースマップ・一覧作成に向けた検討 ・構成機関・団体間における連動した研修会開催の素案検討
令和8年2月13日	・構成機関・団体間における連動した研修会開催
令和8年3月13日	・リソースマップ・一覧の最終確認 ・構成機関・団体間における連動した研修会の振り返り ・協議会まとめ

(7) 外部団体・学校からの依頼研修の実施 7件

依頼元	依頼元数
医療養成校等	3件
関係機関・団体	4件

4. 在宅医療的ケア児者支援方策検討会

訪問介護サービス系喀痰吸引等事業所が増加することで、在宅で暮らす医療的ケア児者とその家族の生活を支える一助になることを目的に検討会を開催し、提言書作成を行った。

令和7年 5月27日	提言内容の検討
令和7年 7月 9日 ~ 令和7年 9月29日	喀痰吸引等登録事業所に対する喀痰吸引等実施状況に関する実態調査実施
令和7年12月23日	提言書の最終確認

5. 重度障害児者の入浴支援事業

在宅で暮らす重度障害児者の入浴の機会が増加するよう入浴支援の充実に向けて、米原市でモデル事業を行い、圏域での課題共有を行った。

モデル	医療的ケア児1名
モデル事業期間・回数	令和7年4月から令和8年3月の間の月2回
モデル事業実施方法	放課後等デイサービス利用時間中に訪問入浴介護により入浴を提供。
課題の共有・周知	長浜米原しょうがい者自立支援協議会主催「湖北地域に置かる実践報告会」に重度障害児者の入浴支援推進委員会としてモデル事業について報告

6. 福祉用具センターの運営管理

(1) 滋賀県福祉用具センター運営委員会の開催

開催日	協議事項および結果
令和7年8月26日	① 福祉用具に関する事業の見直しについて県報告 ② 展示福祉用具の選定について(7社11点中11点採用)
令和8年2月24日	① 福祉用具に関する指定管理業務終了について ② 次年度以降の後継事業について説明

【COZY TOWN】

“来やすさ” “居心地の良さ” というコージータウンの特徴を生かし、若者の社会参加に向けた場づくりや相談支援、アクティブシニアの地域での活動につながる講座の開催などをはじめ、世代を超えて誰もが集まれる拠点として基本事業および分野や部門を横断したごっちゃ事業を展開した。

1. 広報、情報発信の状況

- ・ COZYTOWN について HP および SNS による情報発信
滋賀県社協 HP (COZY TOWN ページ)、Instagram、Facebook
SNS 更新頻度：月4-5回程度
- ・ COZY TOWN リーフレット等を用いた COZYTOWN の周知
- ・ イベントカレンダーの作成および更新
月ごとの COZY TOWN でのイベントカレンダーを作成し紙および SNS・HP にて発信。

2. 基本事業の実施

- ・ 滋賀県レイカディア大学 彦根キャンパスの運営
在校生

46 期：園芸学科 23 名
北近江文化学科 20 名
健康づくり学科 20 名 計 63 名
47 期：園芸学科 26 名
北近江文化学科 14 名
健康づくり学科 11 名 計 51 名

レイカディア美術展開催 令和7年5月28日～6月1日 ※5日間

レイカディア大学祭 令和7年7月18日～7月19日

- ・ しがレイカディアエクステンションセンター(SLEC)

＜ともいきプラットフォームの開設＞

社会貢献活動と健康寿命の延伸がにつながる豊かなシニアライフのコミュニティづくりのプラットフォームとして、レイカディアえにしとの会との協働により10月より運営を開始した。

＜SLEC 友活講座＞

明日が楽しみとなる講座（趣味・生きがい）や自分磨きの口座をレイカディア大学卒業生やえにしにの会会員等の多様な講師陣のもと実施した。

＜ベース友活＞

自分磨きを分かち合う仲間とつながる居場所として、参加者自身によるテーマトークや“楽しみ” “生きがい” に重点を置いたワークショップなどをコージータウンカフェで実施した（概ね月2回）。

- ・滋賀県介護・福祉人材センターひこねセンター
介護・福祉職の無料職業紹介事業の運営
カイゴとフクシ就職フェア in しが 2回実施
職場説明会 5回実施
かいこのシゴト就職応援セミナー 1回
- ・つながり若者センターCOZYTOWN の運営
個別相談支援と居場所活動を軸に主に社会的養護のもとを築立った若者の支援を展開。

3. ごっちゃ事業の実施

- ・おやこサロン（女性のつながり支援）

<地域福祉課×コーギータウン推進課×児童福祉施設>

開催日	毎週金曜日 14:00～15:30
-----	-------------------

- ・つなわか COZY 食堂（若者の居場所活動）

<児童福祉施設×つなわか×カフェ>

開催日	第1 金曜日（夜：COZY 食堂） 第2 火曜日（昼：交流サロン+COZY 食堂） 第3 金曜日（昼：おさんぽ会+COZY 食堂）
-----	---

- ・特例貸付猶予・免除の手続き相談会

<修学・生活資金課×コーギータウン推進課>

開催日	令和7年6月29日、9月20日、12月14日 令和8年3月7日
-----	------------------------------------

- ・子ども食堂フェスタ in コーギータウン

<県社協×子ども食堂×えにしの会×スポンサー企業×アル・プラザ彦根>

開催日	令和7年8月30日
-----	-----------

- ・おかえり みんなの居場所 in 彦根

<若者支援団体×つな若×コーギータウン推進課>

開催日	令和7年5月17日、7月5日、9月6日、11月1日 令和8年1月17日、3月21日
-----	--

- ・ふく楽カフェ（現任者向け）

<社会福祉研修センター×介護・福祉人材センター>

開催日	令和7年6月30日
-----	-----------

4. バリアフリー映画会

社会福祉法人グローとの協働事業

開催日	上映作品	来場者数
令和7年6月14日	太陽の塔	32 名
7月12日	ラストターン	60 名
8月9日	アイミタガイ	61 名

9月13日	夜明けのすべて	64名
10月4日	侍タイムトリッパー	39名
11月8日	タゴール・ソングス	14名
12月13日	片思い世界	36名
令和8年1月10日	ふいふ漬けどうとす	44名
2月14日	ゴッドマザー〜コシノアヤコの生涯〜	57名
3月14日	木の上の軍隊	90名

延べ参加者数 497名 月別平均 41.4名

5. COZY TOWN Café 運営状況 ※売掛除く

年月	来客数	売 上
令和7年4月	1,750	694,850
5月	1,680	699,460
6月	1,640	683,200
7月	1,985	809,400
8月	2,197	907,180
9月	1,678	706,520
10月	2,074	921,730
11月	1,631	715,680
12月	1,559	665,630
令和8年1月	1,584	648,380
2月	1,281	667,840
3月	1,318	575,850
合計	20,377名	8,695,720円

(前年度 19,671名、7,939,100円)

【滋賀県運営適正化委員会事務局】

1. 運営適正化委員会の運営

福祉サービスに関する苦情解決と福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）の適正な運営を確保するため、次のとおり委員会の運営を行った。

（1）全体委員会の開催

開催日 令和8年3月10日（火）

会 場 県立長寿社会福祉センター

議 事 運営適正化委員会の事業報告・次年度計画、今後の活動についての意見交換 等

2. 福祉サービスの苦情解決

福祉サービス利用者等からの苦情の適切な解決を図るため、下記の通り合議体を開催し、解決方法の検討等対応について協議を行った。

（1）苦情解決合議体の開催（全6回）

	日時	報告内容
1	令和7年5月20日（火）	苦情新規案件3件、相談・問合せ案件13件
2	令和7年7月31日（木）	苦情新規案件6件、継続1件、相談・問合せ案件18件
3	令和7年9月30日（火）	苦情新規案件6件、継続2件
4	令和7年11月18日（火）	苦情新規案件2件、継続1件、虐待関連案件1件
5	令和8年1月27日（火）	苦情案件5件、相談案件4件、虐待関連継続1件
6	令和8年3月10日（火）	苦情案件6件

（2）福祉サービスに関する苦情相談の受付状況（月別）

	苦情 受付	苦 情 解 決 の 結 果 (内訳)							その他 問合せ等	合計
		相談 助言	紹介 伝達	あっ せん	通知	事情 調査	申入 れ	継続		
4月	3		1					2	6	9
5月	4		3					2	13	17
6月	2		1					3	11	13

7月	4		4					3	7	11
8月	3		3					1	15	18
9月	2	2	1						11	13
10月	1		1						20	21
11月									18	18
12月									11	11
1月	7		7						16	23
2月	3		2					1	17	20
3月	1		1					1	11	12
合計	30	2	24	0	0	0	0	13	156	186

3. 福祉サービスの苦情解決に関する広報・啓発等

利用者、社会福祉事業の経営者等に対して、福祉サービスの苦情解決の仕組みや運営適正化委員会の機能・役割を幅広く周知し、利用者側から相談をしやすい環境づくりを進めるために、広報啓発を実施した。

(1) 県民向けの福祉サービスの苦情解決に関する広報啓発

- ①リーフレット等広報資料を県内社会福祉施設・事業者、行政、市町社協等へ随時配布
- ②県社協ホームページでの広報

(2) 福祉サービス施設巡回訪問の実施

社会福祉サービスを提供している事業所・施設段階における苦情解決体制整備について状況を把握し、適切な苦情解決を目的とした技術的援助を行うため、施設巡回訪問を実施。苦情対応状況の聞き取りや、苦情解決体制等についての情報提供、助言等を行った。

	期 日	対象（種別）
1	令和7年12月12日	就労継続支援A型事業所
2	令和8年3月19日	就労継続支援A型事業所

(3) 福祉サービス苦情解決研修会の開催

事業所段階における苦情解決事業の充実を目的に、福祉サービス事業者が配置する苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員等の苦情対応力向上に資する研修会を開催した。

福祉サービス苦情解決研修会
【カスタマーハラスメント研修】

期日	場所	講義内容	対象者	参加者数
令和8年 2月25日 14:00 ~ 16:30	県立長寿社会福祉センター 大教室	【講義】 講師 弁護士法人かなめ 所属弁護士 前田 敏洋氏 ・カスタマーハラスメントへの正しい対処法	・福祉サービス事業所の苦情受付担当者及び苦情解決責任者、管理的立場の職員、管理者 ・第三者委員 ・その他	138名

4. 地域福祉権利擁護事業の適正な運営の確保

市町社会福祉協議会が実施する地域福祉権利擁護事業の透明性・公正性の確保を図るため、運営監視合議体を下記のとおり開催し、必要に応じて実施主体に助言等を行った。

(1) 運営監視合議体の開催（全3回）

	期日	主な内容
1	令和7年5月1日	・令和6年度 地域福祉権利擁護事業運営監視（下半期）の助言事項に対する改善報告について ・令和7年度 地域福祉権利擁護事業運営監視（上半期）の実施計画について
2	令和7年10月7日	・令和7年度 地域福祉権利擁護事業運営監視（上半期）の実施報告および助言事項について ・令和7年度 地域福祉権利擁護事業運営監視（下半期）の実施計画について
3	令和8年3月10日	・令和7年度 地域福祉権利擁護事業運営監視（上半期）の助言に対する改善報告について ・令和7年度 地域福祉権利擁護事業運営監視（下半期）の実施報告および助言事項について ・令和8年度 地域福祉権利擁護事業運営監視（上半期）の実施計画について

(2) 定期現地調査の実施

長浜市社会福祉協議会（長浜センター）、長浜市社会福祉協議会（木之本センター）、草津市社会福祉協議会、野洲市社会福祉協議会、湖南市社会福祉協議会、高島市社会福祉協議会、東近江市社

会福祉協議会、米原市社会福祉協議会、豊郷町社会福祉協議会、甲良町社会福祉協議会

(3) 地域福祉権利擁護事業の苦情案件への対応